

## 狛江市教育委員会の自己点検及び評価報告書(平成20年度実施事業)

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、平成20年度に教育委員会が実施した事務事業について自己点検及び評価を行い、狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会(教育に関する学識経験者を含む。)の意見を付して報告するものです。

点検評価項目	教育委員会における中期事業計画にともなう事務事業の見直しを図ることを目的に、狛江市アクションプラン実施計画編に位置付けられる教育委員会の実施計画事業について、20年度の執行状況に基づく自己点検及び評価を行った。
審査委員会による総評	<p>基本的な事項であるが、説明責任を果たす資料といった観点から、専門的用語の表記には十分注意すべきである。同様に、前年度も指摘したが、進捗度を含めて評価が甘い部分が多々見受けられた。今後は、厳しく点検・評価に臨むよう希望する。分かりにくいといった点では、進捗度評価の達成度を示すA B C Dについて誤解を生じかねない表現があった。次年度以降、同様の方向性で点検・評価を行う場合、本来の意に沿った表現に改善する必要があるだろう。市民が読んでわかるもの、納得すべきものを作成すべきである。</p> <p>また、事務事業の目的や目標をしっかりと踏まえた上で、問題点・改善点といった課題を整理するよう心がけてほしい。評価に齟齬や方向性が違うのではないかと思われるものもあった。事務事業の必要性を語る上でも、教育委員会若しくは担当課として事務事業に対する理念をしっかりと捉え、また示す必要はないか。</p> <p>点検・評価そのものの課題として、今後、点検・評価すべきものを整理し、重点化する必要があると思われる。現行の点検・評価においても、予算事業で整理していることから図書整備など基本的に小中同じ考え方で実施している事業が別表になっている。教育委員会として整理してもよいのではないか。また、事務事業評価の形態で点検・評価を行っているが、他自治体の取組みなどを参考に、違った方法論も検討する余地がある。今後、策定する予定の教育振興基本計画を軸に新たな形で点検・評価を行うなど、審査委員会としても方法論を提言していきたい。</p>

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会

委員長	長田 輝男(元狛江市教育研究所次長・元公立学校長)
副委員長	小松 雅彦(弁護士)
委員	高橋 正(市民委員)
委員	荻野 英治(市民委員)
委員	穂山 伸芳(教育部長)

### 開催日程

第1回会議	平成21年9月25日(金)午後1時30分から
第2回会議	平成22年1月26日(火)午後2時
第3回会議	平成22年2月23日(火)午後2時

# 教育委員会自己点検及び評価表事業項目

## 1 学校教育課

整理番号	事務事業名	ページ
1-1	学校安全対策費	1
1-2	就学相談関係費	2
1-3	図書整備（小学校）	3
1-4	図書整備（中学校）	4
1-5	理科教育等設備整備費（小学校）	5
1-6	理科教育等設備整備費（中学校）	6
1-7	生ごみ処理機関係費	7
1-8	中学校給食費	8

## 2 指導室

整理番号	事務事業名	ページ
2-1	教育研究所関係費	9
2-2	教育相談関係費	10
2-3	不登校対策支援	11
2-4	少人数授業講師派遣	12
2-5	ティーチングアシスタント	13
2-6	特別支援教育推進	14
2-7	教科領域研究奨励	15
2-8	教育研究推進	16
2-9	教職員研修等補助	17
2-10	子どもへの被害防止	18
2-11	地域交流推進	19
2-12	副読本関係費	20
2-13	連合行事関係費	21
2-14	児童・生徒健全育成	22
2-15	国際理解教育促進	23
2-16	情報教育推進費	24
2-17	学校プール指導員配置	25
2-18	夏季休業水泳指導	26
2-19	学校運営連絡協議会	27
2-20	学校ボランティア協力員	28
2-21	学校図書館支援センター推進事業	29
2-22	夏季施設関係費	30
2-23	移動教室関係費（小学校）	31
2-24	部活動助成	32
2-25	移動教室関係費（中学校）	33
2-26	修学旅行関係費	34

(参考)

平成20年度 狛江市教育委員会教育目標 (P70)  
 狛江市教育委員会の自己点検及び評価実施要綱 (P71)  
 狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会設置要綱 (P72)

## 3 社会教育課

整理番号	事務事業名	ページ
3-1	学校開放	35
3-2	こどもかけこみ110番	36
3-3	青少年育成事業補助金	37
3-4	地域交流図書室やさきやま文庫読書推進事業	38
3-5	子ども科学体験事業（子ども体験塾）	39
3-6	文化財保護関係費	40
3-7	埋蔵文化財保護関係費	41
3-8	郷土芸能保存会補助	42
3-9	古民家園指定管理業務費	43
3-10	市民健康レクリエーション	44
3-11	少年少女スポーツ振興	45
3-12	市民スポーツ大会関係	46
3-13	総合型地域スポーツクラブ	47
3-14	体育施設指定管理業務費	48

## 4 公民館

整理番号	事務事業名	ページ
4-1	青少年事業	49
4-2	チャレンジ青年学級	50
4-3	成人学習事業	51
4-4	女性セミナー	52
4-5	学習グループ保育	53
4-6	高齢者学習事業	54
4-7	国際交流事業	55
4-8	市民劇場	56
4-9	公民館交流事業	57
4-10	図書室	58
4-11	こまえ市民大学	59
4-12	情報学習事業	60

## 5 図書館

整理番号	事務事業名	ページ
5-1	読書推進	61
5-2	ホームページ運営費	62
5-3	ブックスタート事業	63
5-4	親子読書推進事業	64

6 平成20年 狛江市教育委員会の活動	65
定例会	(65)
その他の活動	(68)

7 平成20年度 教育関係施設の主な整備	69
----------------------	----

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 1

事務事業名	学校安全対策費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校内及び通学途中等において、児童が犯罪等にまきこまれるのを未然に防止する。
----	--

評価年度に達すべき目標	学校安全ボランティアの登録増 学校安全巡回委託の延長 通学路案内標示板の円滑な更新	目標に対する成果の達成度  A・B・(C)・D
評価年度の取組	防犯ブザーの不良が多かったため、製品を変更し、小学校新一年生(21年度入学者)に配布 学校安全巡回委託時間増(1日4時間 5時間) 通学路案内標示板203箇所の更新 「狛江市立小学校の通学路に関する要綱」の策定	
評価年度に達した成果	学校安全ボランティアの協力人数増(H19:709人 H20:786人) スクールガードリーダー巡回指導開催(小学校各1回) 学校内における犯罪被害等なし	

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	17,222	5,491	6,776

問題点・改善点	学校安全ボランティアとの協力関係の充実を図っていく必要がある。 学校安全巡回の配置時間帯が学校毎に差異があり、配置時間の延長に効果があるのか一旦見直す必要がある。 通学路の指定の考え方が整理できておらず、学校側に十分な認識が浸透していない。事務局として安全対策のための通学路の適切な把握を図る必要がある。 通学路案内標示板の更新については、東京電力の管理区毎に進めているが、学校毎に更新する方法をとった方が管理上わかりやすく、適切である。
---------	--

問題解決のための方策	学校安全ボランティアへの情報提供の充実を図るとともに全体会合などの実施について検討する。 学校安全巡回の時間について、延長を図る方向だけでなく、実態を的確に把握し、効果などについて十分検証する。 「狛江市立小学校の通学路に関する要綱」に基づき通学路を適切に把握し、安全対策に活かすとともに通学路案内標示板の更新を計画的に進める。 庁内への働きかけを積極的に行い、通学路の安全確保を進める。また、安心安全課や環境管理課と協力し、所管警察署や地域見守りボランティア、消防署など関係機関へ安全確保のために協力を求めるとともに通学路の情報を提供する。
------------	--

予算要求等今後の方針	小学校新一年生への防犯ブザーの配付を継続するとともに通学路案内標示板の更新費用を増額要求していきたい。 また、PTA要望などについて検討し、予算化を検討したい。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	通学路の把握など、今後の学校への働きかけを明確にすべきではないか。前年度はB評価であったが、通学路案内標示板の設置の取組みに課題を残すためC評価としたとのことである。こうした理由をわかるようにすべきである。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 2

事務事業名	就学相談関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	心身に障がいのある児童・生徒に対し、適切な就学支援を行う。
----	-------------------------------

評価年度に達すべき目標	就学・転学相談を受け、保護者の同意を得て適切な就学先を決定する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	小・中学校の就学相談が25件、小・中学校の転学相談が28件あり、就学支援委員会の判断を保護者に説明し、措置校を決定する。	
評価年度に達した成果	特別支援エリアネットワークとして、地域支援特別支援教育推進協議会を開催(2回) 特別な支援が必要な児童生徒の適切な就学支援が実施できた。 通級児童・生徒数 17年度40名、18年度55名、19年度62名、20年度71名 固定学級児童・生徒数 17年度35名、18年度33名、19年度36名、20年度47名	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	2,147	2,223	1,869

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	通級指導学級へ入級する児童・生徒は年々増加しており、支援を必要とする児童・生徒への迅速な対応が必要とされる。多種多様な事情、障がいがある児童・生徒が支援を必要としており、画一的ではない様々な角度からの対応が要求される。
---------	---

問題解決のための方策	通級指導学級への入級手続きについて、早急に支援が出来るよう、対応の弾力化を図る。児童青少年部、指導室、その他の関係機関との連携を密にしていきながら、それぞれの実情に即した相談を進めていく。
------------	--

予算要求等今後の方針	予算上は、現行の範囲内で運用していくことが可能であると考え、前年同様とするが、特別支援教育支援員の位置付けなどを整理し、今後の予算運用を検討したい。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	「それぞれの実情にあった相談」について明確にしてほしい。就学相談の体制づくりについての説明や点検・評価があってもよいと思う。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 3

事務事業名	図書整備(小学校)	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的・計画

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校図書館資源有効活用のための環境整備を図る
----	------------------------

評価年度に達すべき目標	蔵書の充実、学校間のネットワークを利用して図書に関する多様な要求に応えるとともに、読書活動の充実を図る。	目標に対する成果の達成度  A・B・C・D
評価年度の取組	調べ学習において各校同じ図鑑を5冊ずつ購入し、共用教材として学校間で横断的に活用。司書連絡会12回開催	
評価年度に達した成果	学校図書館蔵書達成率:101.5% 学校図書一人平均貸出し冊数:60冊(前年度52冊)	

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	10,474	12,231	12,776

問題点・改善点	学校図書館に関する事業が、学校教育課と指導室に分かれて運営されており、適切な連携が求められている。蔵書達成率は100パーセントに達したが、計画的な蔵書更新が必要。 学校教育の現場において、学校図書館司書の担う役割が年々重要視されており、勤務時間を含め勤務体系の見直しが求められている。
---------	---

問題解決のための方策	調べ学習等の授業にも対応できるよう、より一層の図書資料充実のための予算を要求するとともに、技術向上のための研修の実施や学校図書館司書の配置時間の延長なども検討していきたい。
------------	--

予算要求等今後の方針	調べ学習等の授業にも対応できるよう、より一層の図書資料充実のための予算を要求するとともに、学校図書館司書の配置時間の延長等も検討する。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	文部科学省学校図書館図書標準による蔵書達成率であるそうだが、この表記では蔵書達成率の基準が何かわからない。司書連絡会を毎月実施しているようだが、内容を明らかにし、必要性について評価すべきではないか。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 4

事務事業名	図書整備(中学校)	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的・計画

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校図書館資源有効活用のための環境整備を図る
----	------------------------

評価年度に達すべき目標	蔵書の充実、学校間のネットワークを利用して図書に関する多様な要求に応えるとともに、読書活動の充実を図る。	目標に対する成果の達成度  A・B・C・D
評価年度の取組	生徒の読書習慣浸透のための選書紹介、PR広報等。司書連絡会12回開催。	
評価年度に達した成果	学校図書館蔵書達成率:103.8% 学校図書一人平均貸出し冊数:9冊(前年度9冊)	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	6,999	8,068	8,327

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	学校図書館に関する事業が、学校教育課と指導室に分かれて運営されており、適切な連携が求められている。蔵書達成率は100パーセントに達したが、計画的な蔵書更新が必要。 学校教育の現場において、学校図書館司書の担う役割が年々重要視されており、勤務時間を含め勤務体系の見直しが求められている。
---------	---

問題解決のための方策	事業の見直しにより、事務分担の明確化を図るか、事業運営自体の統一化を図る必要があると考える。 学校図書館司書の配置時間の延長などを検討する必要がある。
------------	--

予算要求等今後の方針	調べ学習等の授業にも対応できるよう、より一層の図書資料充実のための予算を要求するとともに、技術向上のための研修の実施や学校図書館司書の配置時間の延長なども検討する。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	文部科学省学校図書館図書標準による蔵書達成率であるそうだが、この表記では蔵書達成率の基準が何かわからない。司書連絡会を毎月実施しているようだが、内容を明らかにし、必要性について評価すべきではないか。小学校に比較して、中学校の貸出冊数がかかなり低くなっている。こうした現象を分析して、今後の取組みに反映できればよいのではないか。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 5

事務事業名	理科教育等設備整備費(小学校)	区分			
		行政	政策	基礎的・義務的	計画

区分については事務事業カルテによる。

目的	理科教育の振興を図る。
----	-------------

評価年度に達すべき目標	理科教育設備整備費等補助金交付要綱に基づいた理科教育設備整備費基準金額の現有率を向上させる。	目標に対する成果の達成度  A・B・C・D
評価年度の取組	平成19年度末に計画した平成20年度の購入計画に基づき、各校で必要な設備を整備した。	
評価年度に達した成果	理科設備:19年度末現有率 33.9%      20年度末現有率 34.9% 算数設備:19年度末現有率 38.9%      20年度末現有率 41.8%	

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,789	1,778	1,780

問題点・改善点	本事業の主旨から、計画的かつ長期的な現有率の向上を目指さなければならないが、担当教諭の交代などにより、長期的な計画で整備することが難しい。
---------	---

問題解決のための方策	学校に対し、本事業の主旨を周知するとともに、計画的かつ長期的な理科教育設備整備の振興を図るよう要請していく。また、理科教育備品台帳などの資料を基に、各校における未整備部分等を学校教育課で把握し、各学校の事業計画策定に活かせるようにする。
------------	--

予算要求等今後の方針	平成21年度補正予算にて、新学習指導要領に伴い必要となる設備を一括して整備する為、平成22年度以降については、平成20年度同様の予算を要求する。 当予算は、市の一般財源と理科教育等設備整備費補助金の割合を考慮し、総合的に判断されている。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	理科教育振興法に基づき実施されている事業であり、国の動向に左右されるものである。備品整備に当たって、台帳管理をしているようだが、担当教諭任せになりがちだと思う。教育委員会や学校としての展望を持って事業を進めてほしい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 6

事務事業名	理科教育等設備整備費(中学校)	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	理科教育の振興を図る。
----	-------------

評価年度に達すべき目標	理科教育設備整備費等補助金交付要綱に基づいた理科教育設備整備費基準金額の現有率を向上させる。	目標に対する成果の達成度  A・B・(C)・D
評価年度の取組	平成19年度末に計画した平成20年度の購入計画に基づき、各校で必要な設備を整備した。	
評価年度に達した成果	理科設備:19年度末現有率 42.3%      20年度末現有率 44.2% 数学設備:19年度末現有率 3.1%      20年度末現有率 3.4%	

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	2,299	2,733	2,705

問題点・改善点	本事業の主旨から、計画的かつ長期的な現有率の向上を目指さなければならないが、担当教諭の交代などにより、購入方針が変更されることが多い。当事業の財源となる理科教育等設備整備費補助金の対象とならない理科・算数用設備を各校で必要としていることがある。
---------	--

問題解決のための方策	学校に対し、本事業の主旨を周知するとともに、計画的かつ長期的な理科教育設備整備の振興を図るよう要請していく。また、理科教育備品台帳などの資料を基に、各校における未整備部分等を学校教育課で把握し、各学校の事業計画策定に活かせるようにする。各校で必要としている設備の調査をし、他の予算(備品購入費、消耗品費等)との調整を図る。
------------	---

予算要求等今後の方針	平成21年度補正予算にて、新学習指導要領に伴い必要となる設備を一括して整備する為、平成22年度以降については、平成20年度同様の予算を要求する。 当予算は、市の一般財源と理科教育等設備整備費補助金の割合を考慮し、総合的に判断されている。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	理科教育振興法に基づき実施されている事業であり、国の動向に左右されるものである。備品整備に当たって、台帳管理をしているようだが、担当教諭任せになりがちだと思うが、教育委員会や学校としての展望を持って事業を進めてほしい。
----------------------	---



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

17

事務事業名	生ごみ処理機関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	生ごみの減量とともに、リサイクル処理を進める。
----	-------------------------

評価年度に達すべき目標	学校と協力し、小学校給食の残さいを減らす取組みを進めるとともに、リサイクル処理が円滑に進むよう生ゴミ処理機の更新を計画的に進める。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	第一小学校、和泉小学校の生ごみ処理機の新機種への更新 生ごみ投入量の把握	
評価年度に達した成果	生ごみの残渣引取委託量が20年度は19年度比7%の減になった。 生ごみ排出量 17年度:約50t 18年度:約47t 19年度:約43t 20年度:約40t	

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	5,480	1,586	7,448

問題点・改善点	緑野小学校・第一小学校・和泉小学校以外は生ごみ処理機が老朽化しているので、新しいものに順次交換していく必要がある。給食の残さいを減らす努力が必要不可欠である。学校毎、月毎の生ごみ投入量の把握をしているが、生ごみ減量の取組みに活かし切れていない。
---------	--

問題解決のための方策	学校はもちろんのこと、給食の残さいが減るように、栄養士や給食調理との連携を図る。財政事情を考慮し、老朽化した生ごみ処理機は修繕対応をしながら使用するが、計画的に更新を進める。
------------	---

予算要求等今後の方針	老朽化が進んでいる生ゴミ処理機を、計画的に順次新しいものに交換できるよう予算要求していく。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	給食の残菜を減らす、生ごみを減量するといった観点から捉えて評価すべきである。事務事業評価としては、生ごみ処理といった定型的事業の評価にならざるを得ない部分もある。点検・評価の対象とすべきか精査してもよいのではないか。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

1 8

事務事業名	中学校給食費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校給食法に則り、ボックスランチ方式(デリバリーによる弁当方式)による中学校給食を開始し、生徒に安心安全な給食を提供する。
----	---

評価年度に達すべき目標	10月から中学校給食を開始し、継続的に安心安全な中学校給食が実施できるよう関係機関及び関係者と調整を図るとともに、給食に対する理解が得られるよう生徒や保護者に対し、働きかけを行う。	目標に対する成果の達成度  A・B・(C)・D
評価年度の取組	アンケート実施(計2回、回収率1回目71.0%、2回目93.1%)、「早わかりガイド」「中学校給食申し込みについて」作成及び配布、「配膳室衛生作業マニュアル」作成、「冷凍加工食品の規格及び使用基準」作成、立川市中学校給食視察、三鷹給食センター新工場及びニッセイコムデータセンター視察、中学校給食申込説明会(計8回)、中学校給食運営委員会発足及び開催(計4回)、中学校給食担当者連絡会(計3回)、平成21年度新一年生保護者への中学校給食申込説明会(計6回)	
評価年度に達した成果	中学校給食申込説明会(計8回、参加者人数延べ234名)、給食開始10月14日(火)、月別平均生徒喫食率10月86.44%、11月82.85%、12月80.10%、1月75.76%、2月70.78%、3月71.56%、平成21年度新一年生保護者への中学校給食申込説明会(計6回、参加者人数延べ86名)	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	3,809	3,877	63,439

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	生徒、保護者に対するボックスランチ方式の利点の理解を深め、さらに喫食率の向上を図っていく必要がある。また、狛江市立中学校の全生徒職員は1,300名程度のため、1学年でも学校行事で給食未実施の場合、1,000食保証は困難なことで、学校や保護者への負担も起きるため、保証食数の検討は必要である。また、調理委託業者による異物混入等が31件におよび、調理委託業者への学校給食に対する意識改革、設備投資等、安心安全な給食を実現するため、調理委託業者への衛生指導を十分に行っていく必要がある。
---------	--

問題解決のための方策	給食だよりや臨時のチラシ等で、生徒、保護者及び中学校へ積極的に情報を発信するとともに、定期的に学校を訪問することで給食に関する理解を浸透させる。また、アンケート、残さい調査より、生徒の嗜好を考慮し、栄養摂取基準を準拠しつつも生徒が食べたくなる献立作成を行う。調理委託業者へは、定期的に衛生指導及び衛生検査を行う。
------------	--

予算要求等今後の方針	平成21年度予算は、経常的な運用経費が主なものである。次年度以降は前年度実績を踏まえ、予算内容を精査していくとともに、よりよい給食を目指していく観点から、今後の給食の運営方法や契約内容も含め十分な検討を加えていく。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	異物混入など課題を残すことからC評価としていることと理解する。食に関わることから、安全性の確保が重要な課題であろう。今後の方針として「よりよい給食を目指していく観点から、今後の給食の運営方法や契約内容も含め十分な検討を加えていく。」とあるように、課題解決に向け総合的な観点から取組んでいくことを期待したい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 1

事務事業名	教育研究所関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教職員の資質向上と教育相談及び適応教室の充実のための研究所施設の整備等
----	-------------------------------------

評価年度に達すべき目標	学校の管理運営や授業力の向上を目指した教職員の研修、専門的な助言を行う教育相談や不登校児童生徒の学校復帰を目指した適応指導教室及びゆうあいフレンド事業、また特別支援教育のための諸事業の充実のために施設整備等を進める。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・屋上や外壁の塗装修繕を行い雨漏り等を改善した。 ・学校図書活用関係の資料収集をするとともに、学校へ提供した。 ・書棚を活用して、資料の整理やゆうゆう教室生徒用図書の整理を行った。花壇整備をゆうゆう教室生徒活動として行った。	
評価年度に達した成果	・緊急を要する修繕を完了することにより、施設設備による事故がなかった。 ・教員研修「優れた授業に学ぶ」8回を実施し、参加者約35名の育成ができた。 ・古い机等の入れ替えを行うとともに資料棚を整理し教科書見本を見やすく整理できた。(3か所) ・学校図書館関係資料を多岐に渡って収集し整理することができた。(文献13点、図書16点、指導案10点、先行研究1点)花壇活用ができた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	4,308	4,629	4,397

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・ 研究所施設の管理運営及び経費が目的の事業である。利用者の安全確保を第一に、老朽化している箇所を計画的、継続的に改修、修繕することが必要である。
---------	---

問題解決のための方策	・ 屋上や外壁等の塗装修繕を実施する。 ・ 管理用消耗品の計画的な購入と活用を推進する。
------------	---

予算要求等今後の方針	・ 屋上塗装等の修繕費を増額する。(管財課へ)
------------	-------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	施設の管理面の点検・評価に留まっている。総合的に運営面も評価すべきである。事務事業評価としては、単なる施設管理面の評価にならざるを得ないならば、点検・評価の対象とすべきか精査してもよいのではないかと。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 2

事務事業名	教育相談関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教育相談の充実
----	---------

評価年度に達すべき目標	各種の相談に丁寧かつ適切に対応し解決に結び付ける。 特別支援教育にかかわる発達相談やことばと聞こえに関する相談や関係機関との連携を行う。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・臨床心理士5名と言語聴覚士2名により、相談及び必要に応じた訓練を行い、記録等をまとめるとともにケースを共有した。 ・学校派遣での相談からの継続等を円滑に行った。(学校派遣内容については不登校対策事業で記述)	
評価年度に達した成果	・教育相談件数185件、延べ相談回数1508回行い、保護者等にきめ細かく対応した。 ・ケース会議を月2回行い、相談員相互の情報共有と対応内容の改善を図った。 ・教育相談から適応教室につなげた解決に結び付けたケースがあった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	6,476	7,734	7,775

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・相談件数の増加に伴い、相談員勤務日数、雇用条件の検討が必要である。 ・相談にかかわる検査用品の老朽化と不足がある。 ・保護者、家庭に対して専門的な対応を求められるケースがある。
---------	---

問題解決のための方策	・相談員の勤務日と時間を調整する。 ・各種検査用品を必要性等を精査し、優先順位を付け整備していく。 ・社会福祉士等の資格をもった相談員を配置する。
------------	---

予算要求等今後の方針	・社会福祉士の資格をもった者を配置するため、相談員報償を増額する。 ・検査用品購入の予算を立てる。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	一歩一歩前進していると感じる。評価は妥当だろう。東京都と比較した場合、相談員の報償基準が相当低いといった現状があるようだが、優れた資質を持つ相談員の確保が継続的に必要なことから、そうした部分も点検・評価で具体的に明らかにし、財政部門へ働きかけていく必要があるのではないかと。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 3

事務事業名	不登校対策支援	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	不登校児童・生徒の学校復帰を支援する。		
評価年度に達すべき目標	不登校傾向にある児童生徒の学校復帰を目指し、教育研究所に設置する「ゆうゆう教室」や「ゆうあいフレンド」事業の充実を図る。また、教育研究所の専門教育相談員を小学校へ派遣し、各学校の実態に応じた、きめ細かい相談活動を展開する。		目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小学校へ担当相談員を週1回派遣し一日常駐し、児童や教員、保護者の相談に応じるとともに、継続面接を実施した。</li> <li>「ゆうゆう教室」で指導員が計画的に取組み、教科等指導及び自立のための行事を実施した。</li> <li>「ゆうあいフレンド」で指導員が、家庭訪問等を行い、ひきこもりがちな生徒の面談及び保護者の相談に対応した。</li> </ul>		
評価年度に達した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>適応教室の入級者は10人前後で(常に出入りがある)、指導の成果として小学生1名、中学生2名が学校に復帰した。</li> <li>各学校への教育相談員の派遣は、延べ330回に上り、教育相談対応(観察、相談、検査、会議、面接)は、延べ総数は1,762であった。</li> <li>「ゆうあいフレンド」は、延べ21回派遣した。</li> <li>不登校児童数は1名増加したが、生徒数は1名減り、中学校の出現率が初めて東京都の平均を下回った。</li> </ul>		

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	12,605	12,010	12,565

問題点・改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校6校での、教育相談対応(観察、相談、検査、会議、面接)は、延べ総数1,762となり、対応状況が増加するとともに、家庭背景や保護者の状況等に起因するものがあり、関係機関との連携などをコーディネートする専門資格をもった人材が必要である。</li> </ul>
問題解決のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談員の小学校派遣報酬を増やす必要がある。(スクールソーシャルワーカーの配置も検討する。)</li> </ul>
予算要求等今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカーの報酬を増額して勤務日数を増やす。</li> </ul>
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	<p>学校との連携を深めている様子や具体的取組や成果について前年度に比べてわかりやすくなっている。教育相談関係費でも述べたが、東京都と比較した場合、相談員の報酬基準が相当低いといった現状があるようだが、優れた資質を持つ相談員の確保が継続的に必要なことから、そうした部分も点検・評価で具体的に明らかにし、財政部門へ働きかけていく必要があるのではないか。</p>

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 4

事務事業名	少人数授業講師派遣	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	児童・生徒の基礎学力の向上ときめ細やかな指導
----	------------------------

評価年度に達すべき目標	学力の定着を目指し、各学校の個に応じた指導の工夫改善に対応するため、非常勤講師を配置し、チーム・ティーチングや少人数指導及び小学校における教科担任制を推進し指導効果を高める。	目標に対する成果の達成度  A (B) C・D
評価年度の取組	・各学校からの、少人数指導や、教科担任制に必要な時間数の要請により、時間配分を行うとともに、講師手続き事務を滞りなく行った。少人数指導状況調査訪問を各校年2回、指導室訪問を年1回行って実態把握をした。	
評価年度に達した成果	・小学校6校7人、中学校4校7人 2,271時間を配置し、各学校で少人数指導や習熟の程度に応じた指導が行われ、授業改善により指導内容の質が向上している。 ・全国学力・学習状況調査では、市全体の平均正答率が全国平均を上回っている。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	4,835	4,732	5,564

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・学力向上のために、個に応じた指導や習熟の程度に応じた指導計画や指導内容をさらに改善する。 ・学校間で基礎・基本の定着の状況にばらつきがある。
---------	--

問題解決のための方策	・学力向上に課題がある学校へ、講師指導時間数を増やす。 ・少人数担当者連絡会での研修を継続し、各校の少人数指導の質を上げる。
------------	---

予算要求等今後の方針	・より効果的な指導が行えるよう学校の実態に合わせ、必要な時間数を要求していく。 ・各校の少人数指導等の指導計画や指導実態の把握をきめ細かく行う。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	文部科学省の調査によると習熟度別や少人数による指導を行えば、学力が伸びる傾向が見られるとの結果が得れているそうである。少人数授業講師派遣は、学力向上に向けた取組みとして効果的であることが伺われる。さらに効果的に活用できるよう研修による講師の質の向上や必要な時間数の配置を確保するよう努めてもらいたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 5

事務事業名	ティーチングアシスタント	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教職及び心理職を志す大学(院)生を学習補助として活用する	
評価年度に達すべき目標	各学校の個に応じた指導を支援する人的措置として、近隣の大学と提携し、教職を志望している大学生及び大学院生をティーチングアシスタントとして配置する。また、小学校の理科については実験等を通して理科教育の充実を図るために理科支援員を配置する、理科支援員配置事業はティーチングアシスタント事業から独立させ、充実を図る。	目標に対する成果の達成度  A · (B) · C · D
評価年度の取組	・小・中学校長からの派遣要請に応じて、個別指導や通常学級で特別支援が必要な児童生徒への対応、行事や部活での補助等のために、ティーチングアシスタントを派遣した。 ・理科支援員は、小学校2校、5・6学年に配置し、実験観察等の補助をして理科授業の充実を図った。	
評価年度に達した成果	・小学校へは延べ742回、中学校へは延べ137回派遣し、個別指導や通常学級で特別支援が必要な児童生徒への対応、行事や部活での補助をすることができた。 ・理科支援員は、小学校2校、5・6学年に891時間配置し、実験観察の補助等を行うことができ、理科学習への興味関心を得ることができた。 ・ティーチングアシスタント登録が前年より10名増えて81名になった。	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	582	1,033	2,409

問題点・改善点	・理科支援員は、実施校に限られている。 ・ティーチングアシスタント事業と理科支援員配置事業がひとつの事業になってしまっている。
問題解決のための方策	・理科支援事業の実施校を増やす。 ・性質が違う事業を分ける。
予算要求等今後の方針	・より学校のニーズに対応できるよう拡充し、配置手続きを効率化する。 ・理科支援事業実施校数を増やすために、増額するとともに性質が違う事業であるので、今後分けていく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	「ティーチングアシスタント事業と理科支援員配置事業がひとつの事業になってしまっている。」という意味がわかりづらい。そこに問題がある場合は早急に改善すべきではないか。創意工夫の力を養い、また合理的な日常生活を営むため、科学的な知識や見方、技能を培う、理科教育の必要性が言われて久しい。国の補助制度等を活用し、積極的な支援に努めてもらいたい。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 6

事務事業名	特別支援教育推進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	特別支援教育の推進と個別対応実施		
評価年度に達すべき目標	通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒に対し、校内委員会や巡回相談を各校3回実施する。特別支援教育ティーチングアシスタントの配置をとおして、個々のニーズに的確に応える指導を推進する。		目標に対する成果の達成度  A・B・C・D
評価年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家チームを構成し、各学校に年3回巡回し、児童生徒の観察や担任からの状況報告により、専門的な指導助言を受けたり、今後の指導方針を立て、支援を進める。</li> <li>・チーム(大学教授、医師、相談員、スクールカウンセラー、特別支援学校コーディネーター、特別支援学級担任、各校コーディネーター)</li> </ul>		
評価年度に達した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家チームによる巡回相談を各校3回実施して、授業観察やケース会議を行い適切な支援に結び付けることができた。</li> <li>・日常的な学習活動支援として、学校からの要請に応じてティーチングアシスタントを機を逃さず配置した。</li> <li>・各学校へ指導計画や個別の教育支援計画の作成等について指導・助言して個別指導計画は88%、個別の教育支援計画は72%作成することができた。</li> </ul>		

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	635	835	662

問題点・改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家チームの日程調整と確保をすることが難しい。</li> <li>・学校からの希望が、医療関係専門家である場合が多く、複数確保することが必要である。</li> </ul>
問題解決のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校3回の巡回日程を組むために、前年度中に調整をする。</li> <li>・医師等を複数確保して、学校の希望日について調整ができるようにする。</li> </ul>
予算要求等今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談の充実を図るため、学校のニーズに応じられるよう医師派遣報償費を増額要求していく。</li> <li>・特別支援教育に関する取組みを「狛江の教育」などを通じて、市民に定期的に情報発信していく。</li> <li>・特別支援教育に関する教員研修を継続していく。</li> </ul>
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	<p>限られた予算の中で専門家による巡回相談の充実に努めていることは評価できる。個別指導計画や個別の教育支援計画の作成については、積極的に推進する必要があるが、対象児童・生徒について100%作成が望ましいが、さまざまな理由から現状があると思われる。教育委員会として積極的に関与するとともに、目標を持って取り組んでいただきたい。</p>



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

27

事務事業名	教科領域研究奨励	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教員の研修に対する支援・援助により指導力向上を図る。
----	----------------------------

評価年度に達すべき目標	・若手教員を育成するグループ研究を活性化するとともに、教育課題や教科指導に資する研修会への参加を促進させたり、校内研修講師の招へいを促し、教職員の指導力の向上を図る。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・研究グループの申請を受け6グループを決定し、年間を通して実践研究を行い結果報告の提出確認をした。 ・各学校が指導資料とするため、研究成果を報告書としてまとめ、配布する。	
評価年度に達した成果	・申請があった教員6グループが年間を通して実践研究を行った。 ・研究成果を紀要としてまとめ、市内10校で活用できるよう配布した。 ・研究内容(国語、体育、問題解決、新学習指導要領など)が新教育課程を見通して充実したものとなった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,040	1,034	912

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・今後の教育課題の見通しを持って、実践的内容の充実を図り、成果を効果的に活用できるようにしていく。
---------	---

問題解決のための方策	・指導室として見通しを定め、必要な教育課題研究の方向を具体的に示し、募集、審査を行う。 ・研究の途中で進捗状況や内容を確認して指導・助言する。
------------	--

予算要求等今後の方針	・予算は本年度同様にし、今後もこの事業を継続していく。
------------	-----------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	今後の方針について、予算要求の観点のみ記されていることは残念である。指導力向上を図るための取組みは難しく、一朝一夕に結果が出るものではないが、情報収集に努めつつ、効果的な方法を研究し、今後の方針を示すことができるようお願いしたい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 8

事務事業名	教育研究推進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	研究・研修奨励推進 指導力の向上
----	---------------------

評価年度に達すべき目標	狛江の教育21研究協力校2校及び研究奨励校2校を指定し、教育課題に対する実践的研究を行い、学校教育の質的向上を図る。また人権教育、道徳教育、小学校生活科の指導の充実に努めるとともに、個に応じた指導の一層の充実に努める。	目標に対する成果の達成度  ○ A B・C・D
評価年度の取組	・研究協力校、研究奨励校に対し、年間を通し研究を進めることを支援し、教員の授業力向上を図るとともに、授業公開を含む研究発表を行い、研究成果の普及に努めた。 ・研究成果を資料としてまとめ、各学校に配布し活用を促すことによって授業改善に結び付けた。	
評価年度に達した成果	・研究奨励校の小学校は「言語活動」、中学校は「各教科における学習意欲の向上」を中心に研究を深め、指導方法や内容の改善に取組み、一定の成果が見られた。協力校では新学習指導要領の「言語活動」や「英語活動」について先進的に取組み、成果を発表した。市内各校の研究意欲が高まり、計画的に取組んでいることが指導室訪問などで把握できた。	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	3,000	3,049	5,242

問題点・改善点	・現在も新教育課程にかかわる研究を行っているが、さらに先進的な研究に取組むよう指導・助言をする。 ・各委託料の計画、報告に対する助言を継続して行う。
---------	---

問題解決のための方策	・指導要領の充実すべき重点・改善事項にかかわる資料作成や既存資料の改訂を進める。 ・各委託料額の見直しを図りさらに有効な活用ができるように、研究内容への指導助言などを適宜行う。
------------	---

予算要求等今後の方針	・指導用の伝統文化資料の作成のため、印刷製本費を確保する。 ・総合学習推進事業委託について各校単価を減額する。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	財政事情や精査の結果として減額措置が取られるということで理解するが、説明が乏しく、予算要求の方針として「減額する。」といったことが理解しにくい。市独自の取組みとして積極的に推進していると思う。今後も継続的な事業として推進してもらいたい。日々忙しい中で学校が取組んでいるものである。学校側の視点からの点検・評価も必要である。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 9

事務事業名	教職員研修等補助	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教員の資質向上と学校教育の充実を図る。
----	---------------------

評価年度に達すべき目標	市立小学校教育研究会及び市立中学校教育研究会の研究活動を奨励し、教職員の資質の向上を図ることにより、信頼される学校教育の実現を支援する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・校長会と連携を密にして、小学校教育研究会、中学校教育研究会の月例研究実施の際、講師紹介、授業研究の指導・助言、発表会場の手配等、支援した。	
評価年度に達した成果	・小学校教育研究会14部会中学校教育研究会12部会が、実践研究を進め、成果をまとめた。 ・小・中学校研究会役員からの依頼で、指導主事が講師として2回、講師の紹介を2回行い研究活動を支援した。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,000	1,000	998

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・研究成果について、さらに様々な方法で市民にも伝えるための手立てについて支援する必要がある。 ・小学校と中学校の研究に連携を持たせていく必要がある。
---------	---

問題解決のための方策	・「狛江の教育」に掲載できる機会をつくったり、各学校の「学校だより」に研究内容を具体的に掲載し、保護者等に知らせることなどを助言していく。 ・小学校・中学校研究会が合同会を持つことを提案していく。
------------	---

予算要求等今後の方針	・校長会が中心となって企画・運営している。引き続き自主性を尊重して助言、支援にあたる。 ・本年度同様、今後もこの小学校・中学校教員の自主的取組みである教育研究会の活動を支援するため補助を継続していく。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	小学校・中学校教員の自主的取組みに対し、支援や助言をしていくことは重要であると理解できる。研究会における研究課題などを精査し、現状認識の下、必要性について十分把握することは不可欠だが、財政的支援を継続するとともに、助言や情報提供などソフト面での充実も図るようお願いしたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 10

事務事業名	子どもへの被害防止	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	子どもを事故や犯罪の被害から守る活動への支援
----	------------------------

評価年度に達すべき目標	学校の内外における安全確保は、子どもの人権尊重の観点からも重要課題であるので、児童・生徒自身はもとより保護者や学校、地域社会が連携して行う子どもの被害防止に向けた各学校の取組みを推進する。	目標に対する成果の達成度   Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	・全校で被害防止のための方策や事業を実施するために、計画書の提出と実施後の報告書の提出を求めた。 ・指導室訪問等で、現状の取組みについて確認・把握した。 ・指導室主催で救急救命講習会を実施した。	
評価年度に達した成果	・各学校が、実情に応じた展開を行い、被害防止活動を具体的に展開することを計画書と報告書で確認した。 (購入品:地区班の表示取り付け、不審者侵入防止用消耗品購入、安全マップ作成時の腕章等、研修会講師報償:IT犯罪防止研修、セーフティ教室、禁煙教育等) ・救急救命講習を開催し、消防庁から救命技能認定書を25人の教員が受けることができた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
		470	435

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・活用の状況は、各学校ごとの実情で異なるが、さらに様々な工夫等の効果的な事例を集約して生活指導主任会などで紹介して行く必要がある。
---------	---

問題解決のための方策	・月例の副校長会や生活指導主任会で、情報交換を行い、各学校の様々な取組みにおいて評価すべき点があれば、すぐに取り込めるよう配慮していく。
------------	--

予算要求等今後の方針	・各校の事業と講習会を本年度同様とする。
------------	----------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	説明責任の資料として活用する面もある。まず、子どもの被害防止の範囲についての定義を示してほしい。目的を明確に捉えて取り組むべき事業であり、その観点から点検・評価すべきものである。問題点・改善点の記載内容が薄いように感じる。なぜ進捗度がAなのか理解しがたい。点検・評価に再考の余地がある。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 11

事務事業名	地域交流推進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	地域住民や一般市民に開かれた学校づくりを推進をする。
----	----------------------------

評価年度に達すべき目標	各学校で行われる様々な地域交流活動を支援し、地域に根ざした教育活動の充実を図る	目標に対する成果の達成度  ○ A B・C・D
評価年度の取組	・各校からの特色ある地域交流事業計画の提出を受け、指導・助言を通して実践を支援し、学校訪問や実績報告書において地域交流の実際を取組み、展開を確認した。	
評価年度に達した成果	・各校が実情に応じて特色ある交流事業を計画的に実施し、効果的な交流ができたことが、管理職ヒアリングや学校訪問及び実績報告書から確認できた。(触れ合いフェスティバル、夏祭り運営、米作り豆作り講師招へい、地域あいさつ運動植込み作業等)	

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	400	400	400

問題点・改善点	・今後も、各学校での創意ある取り組みを尊重していくことが必要である。 ・さらに、学校間の情報交換をする機会をつくっていく。
---------	--

問題解決のための方策	・副校長会や生活指導主任会で取組み紹介の機会をつくる。
------------	-----------------------------

予算要求等今後の方針	・本年度同様額として、さらに有効活用を促進する。
------------	--------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	地域交流推進についての教育委員会の考え方を示す必要があるのではないかと認識している。日々忙しい中で、学校として取組んでいくことは容易ではないと認識している。まだ地域交流の推進は発展途上にあり、進捗度がAであることが理解し難い。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 12

事務事業名	副読本関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	社会科、体育科、道徳の指導資料とする。		
評価年度に達すべき目標	小学4年～6年で使用する体育及び小中学校で使用する道徳の副読本、小学校で使用する「わたしたちの東京」及び狛江の教員が編集する「わたしたちの狛江市」「小中学校推薦図書案内」を選定、編集、配布することによって、指導の充実を図る。		目標に対する成果の達成度  Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	・前年度末に副読本を配布し、授業活用ができるようにした。 ・「小中学校推薦図書案内」を配布し、読書活動を推進をした。		
評価年度に達した成果	・小・中学校道徳副読本及び指導書、小学校体育副読本、小学校中学年用副読本及び地図等を不足なく配布した。「わたしたちの狛江市」:564部」「社会科副読本地図」:621部(いずれも3年生用) ・「小中学校推薦図書案内」を配布し、読書推進をしていることを図書館連絡協議会で把握した。		

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	3,971	6,650	4,501

問題点・改善点	・地域にかかわる学習をさらに充実させていくことや、新学習指導要領に基づいた教材となるよう、平成23年度までに社会科副読本の全面改訂を行う必要がある。 ・副読本等をさらに効果的に活用することが大切である。
問題解決のための方策	・社会科副読本作成委員会を設置し平成21年・22年の2年間計画で、編集作業を行い、さらによいものを作成していく。 ・年度ごとに副読本の活用上の課題等を学校から把握し、採択に生かしていくとともに活用展開への指導・助言をする。
予算要求等今後の方針	・社会科副読本について印刷製本費を増額していく。 ・図書関係の冊子は継続して、印刷・配布する予算を確保する。
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	地域教材や市として特色ある教育活動を進めるための副読本の重要性については理解できる。今後も改善を加えつつ、効果的に活用できるものを作成して欲しい。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 13

事務事業名	連合行事関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校合同事業による教育的効果を上げる。
----	---------------------

評価年度に達すべき目標	音楽を通して市内の小中学校の児童・生徒が学校を越えて共に学び、育つ場を確保し、情操教育の効果を高める。	目標に対する成果の達成度  A B・C・D
評価年度の取組	・小・中学校音楽鑑賞教室を各1回実施して、児童・生徒が本物の芸術にふれることができるようにした。 ・小学校連合音楽会1回・中学校連合音楽会1回、合同音楽会1回を校長会と連携して企画・運営・実施して、児童・生徒が互いに学ぶことができるようにした。	
評価年度に達した成果	・音楽鑑賞教室では、児童・生徒がそれぞれの発達や学習指導要領内容にあった充実した演奏を聴くことができ、その後の感想等から生涯にわたって音楽を楽しむ態度の育成に役立ったことが分かった。 ・音楽会を実施(小学校連合音楽会1回・中学校連合音楽会1回合同音楽会1回)したことにより、事前の練習過程で演奏技能や表現力の伸長を図ることができ、互いに鑑賞することにより学びあう姿が見られ、成果が見られた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	2,857	2,947	2,958

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・音楽鑑賞教室については、東京都交響楽団との事前の連携を密にして発達段階や指導内容に即した演奏曲目を決定している。今後も連携に努めていく必要がある。 ・各音楽会では、児童・生徒の演奏の表現活動とともに、さらに鑑賞について具体的な評価をしていくことが必要である。
---------	---

問題解決のための方策	・東京都交響楽団との話し合いを今後も必ず複数回実施していく。 ・各学校での指導において、表現活動における技能伸長とともに児童・生徒同士の鑑賞における育成目標を、さらに具体化するよう指導・助言をして充実を図る。
------------	---

予算要求等今後の方針	本年度同様額を確保して、今後も音楽鑑賞教室を継続する。
------------	-----------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	情操教育として、質の高い音楽鑑賞は効果的であると理解できるが、問題点・改善点にある「具体的な評価」や問題点解決のための方策にある「育成目標の具体化」ということが、具体的、具体化という言葉を使っているが、教育委員会の意図として、どういう方向性を求めているのか抽象的でわかりにくい。明確に示すことが難しいということであろうが、なるべくわかるように示してほしい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 14

事務事業名	児童・生徒健全育成	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教育問題専門家による講演により教育啓発を行う。
----	-------------------------

評価年度に達すべき目標	市内の小中学校に子どもが在籍する保護者や教職員及び健全育成にかかわる市民を対象に有識者が講演を行い、教育問題を共に考えることを通して、市全体の教育力向上を図る。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・保護者、教員、市民を対象にした2時間の講演会の企画、運営、実施、広報を行った。 ・地域や教育課題にあった講師選定を行い、講演内容の充実を図った。	
評価年度に達した成果	・「学校と地域ではぐくむ子どもの未来」(講師:東京学芸大学准教授 加瀬進)を中央公民館地下ホールで行い、教職員、保護者、一般市民合計76人の参加を得て、会場からの質問も活発に行われ、教育にかかわる大人の啓発機会となった。アンケート結果では、専門的な内容に触れたことに対する感想が多かった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	99	74	99

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・参加対象者が多岐に渡るため、時間設定に対する希望がまちまちである。 ・今後も、参加者のニーズや、地域実態及び今後の教育課題等を見据えた講演内容を決定していく。
---------	---

問題解決のための方策	・参加者からのアンケートを集約、分析して、企画・運営に生かすとともに様々なポスターやチラシ配布などを十分に行い、参加者を増やす努力を重ねていく。 ・年度当初から講師選定を検討して早いうちに決定する。
------------	--

予算要求等今後の方針	・本年度同様額とする。今後も講演会を継続するとともに内容を工夫していく。
------------	--------------------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	参加者に対するアンケートの結果について、もう少し詳しく記載してもよいと思われる。現状の課題に即した魅力的な企画を期待する。
----------------------	---



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 15

事務事業名	国際理解教育促進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	国際理解教育の推進・援助
----	--------------

評価年度に達すべき目標	国際理解教育や新指導要領における外国語活動及び中学校の英語指導におけるコミュニケーション能力の充実を図るためにALTを配置する。また、日本語が話せない児童生徒に対し、日本語の適応指導のための指導員を派遣する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・小・中学校1校35日ALTを配置し指導の充実を図る。 ・指導内容の質の向上のためALT委託業者との連絡、相談、報告、改善のシステムを徹底した。 ・学校の要請に応じて、迅速に日本語指導講師を派遣し適応指導とともにアイデンティティを大切にしたい指導ができるようにした。	
評価年度に達した成果	・小・中学校1校35日ALTを配置し指導内容の充実を図り、直接ネイティブの発音等に触れることによりコミュニケーション能力育成や国際理解に効果が上がっていることを、各校訪問や担当者報告から把握した。 ・小学校英語活動研修会を2回行い、対象教員の2/3が参加できた。 ・日本語指導講師派遣延べ666時間を行い、対象児童7名生徒3名が学校生活を順調に送ることができた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	5,688	6,442	9,882

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・英語活動にかかわる小学校教員の指導方法や指導計画づくりについての研修会は継続して実施することが必要である。 ・外国人児童生徒数が、平成19年度合計4名から平成20年度は10名と増加が著しく、また全く準備なく突然来日した場合があり指導時数が不足している。
---------	--

問題解決のための方策	・小学校英語活動研修会の設定を明確に委託業者に位置づけ継続実施をする。 ・日本語指導講師派遣時数を増やすとともに、日本語指導講師の登録者も増やす。
------------	--

予算要求等今後の方針	・日本語指導回数増が必要であるので、講師報償費を増額して、適応指導やアイデンティティを大切にしたい指導ができるようにしていく。 ・英語活動の指導状況を訪問等を通して把握する。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	ALTは、外国語指導助手(Assistant Language Teacher)のことであるが、表記には気を使うべきであろう。予算上は、日本語指導員やALTなどの配置にかかる経費であろうが、国際理解教育推進といった観点から、いわゆる言葉の問題だけではない取り組みも記載し、評価すべきではないか。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 16

事務事業名	情報教育推進費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	情報教育推進、探求・表現活動の充実		
評価年度に達すべき目標	児童生徒がコンピュータに親しみ、IT活用能力を身につけさせる学習指導が充実するよう、情報機器の環境整備を図る。		目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒使用のパソコン室パソコンの順次リース更新を行い指導に支障が出ないようにした。</li> <li>個人情報保護にかかわるセキュリティ対策整備を実施する。</li> <li>情報教育担当者連絡会により、指導状況を把握するとともに、夏季研修会で児童生徒への情報モラル育成指導を取り上げた。</li> </ul>		
評価年度に達した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒使用のパソコン室パソコンを順次リース更新し、業者による設置やその後の不具合への対応などを業者と迅速に対応した。</li> <li>個人情報保護にかかわるセキュリティ対策のために、教職員用パソコンの設定整備をするとともに暗号USBの貸与や、各学校のセキュリティ基準の明文化等を行い管理の徹底を図った。</li> <li>情報教育担当者連絡会や研修会を通して、情報モラル指導の徹底を図り、児童生徒間での大きな問題行動は発生しなかった。</li> </ul>		

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	68,628	66,598	69,919

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校で教科等におけるパソコン室の活用等が進んでいるが、プリンタやインク等の不足や機器故障が多数発生している。</li> <li>児童・生徒に対する情報モラル教育に苦手意識をもつ教員がいるので指導が必要である。</li> <li>教員の個人情報保護についての管理をさらに徹底していく。</li> </ul>
問題解決のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>リース満了を迎えるパソコンについては、可能な限り最新モデルの情報機器整備を行う。</li> <li>情報教育研修会におけるモラル指導は、機器操作が苦手でも日常的に指導ができるよう内容や講師を工夫する。</li> <li>教員の個人情報保護研修を徹底する。</li> </ul>
予算要求等今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器の環境整備を行うための必要経費を計上する。</li> <li>児童・生徒がパソコンを道具として活用できるように段階的な指導について、さらに助言をしていく。</li> </ul>
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	情報機器の活用に留まらず情報をそのものを活用する際の情報リテラシーや情報モラルの問題・課題を整理し、点検・評価すべきであろう。こうした点も含め、指導にあたる教員や児童・生徒の情報スキルをどのように向上させていくかといった観点から考えていってほしい。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 17

事務事業名	学校プール指導員配置	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	指導員の配置による安全確保及び指導の充実
----	----------------------

評価年度に達すべき目標	通常の体育科における水泳指導において指導員を配置し、安全確保及び指導の充実を図る。(1学年3学級未満が対象)	目標に対する成果の達成度  ○ A · B · C · D
評価年度の取組	・必要な水泳指導員を校長推薦や指導室面接などを通して適切に配置して、水泳指導における安全管理を進めるとともに、指導内容の充実を図った。	
評価年度に達した成果	・3学級未満の学年に指導員を延べ156時間配置し、安全指導面の強化とともに、水泳指導の充実を図ることができたことを、実際の指導状況観察や、学校からの報告によって把握した。 ・指導員の取組み姿勢が誠実で、児童や教員から好感をもたれている。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	335	223	257

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・授業中の水泳指導における安全確保のため、指導員を適切に配置する必要がある。また、質の確保も重要である。 ・人材育成の観点から、一過性の取組みにならないようにしていきたい。
---------	---

問題解決のための方策	・今後も指導員の募集等は年度当初から計画的に行い、資質・能力の高い人材を継続して確保する。 ・教職を目指す学生等の実習の場としても有効であるので、人材育成に生かしていく。
------------	--

予算要求等今後の方針	・水泳指導中の安全確保は最重要課題である。教員の指示や指導により、指導員は効果的に活用されている。本年度同様に指導員を配置できるように予算を計上する。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	記載に見られるように、水泳指導における安全性の確保は最重要である。また、人材育成の観点から、教職を目指す学生等を活用することは評価したい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 18

事務事業名	夏季休業水泳指導	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	特別支援副籍事業における水泳指導の安全確保のため指導補助員を配置する。
----	-------------------------------------

評価年度に達すべき目標	夏季休業日の水泳教室及び特別支援学校に通学する児童・生徒との交流活動として実施する夏季水泳教室の安全確保及び指導の充実を図るため、指導補助員を配置する。	目標に対する成果の達成度    ○ A ○ B ・ C ・ D
評価年度の取組	・夏季休業中の水泳指導に必要な指導補助員を確保及び配置をして安全確保及び指導の充実を図った。 ・副籍事業水泳該当児童生徒が水泳教室に参加し、交流活動が行えるよう、必要な指導員を確保し事前に関係者の説明会を実施し、安全で充実した交流を実施した。	
評価年度に達した成果	・小学校は延べ79日間、中学校は延べ21日間の指導補助員を派遣することができ、事故は全くなかった。 ・副籍事業の水泳希望該当児童生徒が14名延べ23日参加し、安全に楽しく交流が実施できたことを実際の訪問や事後報告で把握した。実施までの関係者連絡や説明会を丁寧に行った結果、順調に実施することができた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,853	1,835	1,604

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・指導補助員確保や保護者説明会開催には、きめ細かな準備と調整を行っているが、人員確保のため担当者が昼夜を問わず連絡調整しなければならない。
---------	---

問題解決のための方策	・年度当初から指導補助員を計画的に確保するために、複数の担当者で対応する。 ・各学校から、さらに指導補助員候補についての情報を収集する。
------------	---

予算要求等今後の方針	・特別支援学校在籍者等の状況から本年度同様の水泳での交流ができるように予算を計上する。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見  
副籍制度とは、都立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区市町村立小・中学校に副次的な籍をもち、直接的な交流や間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりを継続させていくものである。こうした説明がないと、市民は理解できない。また、取組み自体は評価に値するが、事務的な困難さを問題点・課題点等に挙げることは如何なものだろうか。点検・評価の趣旨を理解されたい。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 19

事務事業名	学校運営連絡協議会	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	地域に開かれた学校運営の推進
----	----------------

評価年度に達すべき目標	学校運営について、外部からの評価や協力関係を協議する学校運営連絡協議会を各学校に設置し、保護者、地域住民、近隣学校関係者、有識者と意見交換するなかで学校理解及び教育内容の向上を進める。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・各学校で年に3回、運営連絡協議会を実施するよう助言するとともに、実績報告書の提出を求めた。	
評価年度に達した成果	・各学校で、年3回の学校運営連絡協議会を実施することができた。 ・協議では、校長の経営計画の説明や学校での取組みの様子、学力向上や健全育成上の課題等、各校の実情や特色ある教育などに即した話し合いが行われ、委員から厳しい意見や協力的な意見が聞かれ成果を得ることができた。 ・学校評価モデル校(和泉小、二中)では、学校評価についても取り上げることができた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	170	154	209

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・学校の状況によって、日程調整に課題があり欠席者が出てしまうところがある。 ・運営連絡協議会での話し合い結果を積極的に保護者等に発信していくことが求められる。 ・今後、校長が中心となって、学校評価の関係者評価構成員や評価内容の周知・理解について進めていくことが必要である。
---------	--

問題解決のための方策	・運営連絡協議会内容について、学校だより等で広報するよう指導・助言をしていく。 ・学校評価の基本的な流れや学校の評価計画を作成するよう指導・助言をして、さらに支援をしていく。
------------	--

予算要求等今後の方針	・実績に合わせ、事業運営に必要な経費を計上する。
------------	--------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することを通じて、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める制度である。開かれた学校づくりを進めるため、各学校、忙しい中、努力していることと思う。運営連絡協議会の活動目的は、地域における学校運営上の課題を明らかにするとともに、学校を理解し、学校と協力の下、よりよい学校づくりを進めることである。運営連絡協議会の活動が充実し、実となる議論が活発に行われるようであればならないと思う。形骸化しないよう教育委員会として課題をしっかりと把握し、展望を持って推進してほしい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 20

事務事業名	学校ボランティア協力員	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	地域人材を活用し、小・中学校の教育活動への支援を図る。
----	-----------------------------

評価年度に達すべき目標	様々な分野で専門性を有する市民が、学校ボランティア協力員として登録し、学校の要請に基づき教育活動を支援する体制を整え、地域に開かれた学校づくりを推進する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・学校でボランティアとして活躍してくれる人の登録と保険手続きを行い、地域に根ざした活動や学校での教育活動の充実が進むように支援をした。登録者は全校で50人以上になるようにした。	
評価年度に達した成果	・登録者66名となった。そのうち学校を通した申請は62名で一般応募は4名となっている。 ・内容は、教科指導の補助や総合的な学習補助、介助を要する児童・生徒への支援、花壇の手入れ、クラブ・部活動補助等と多岐に渡っていて、各学校の実態に合った展開となっている。	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	18	30	17

問題点・改善点	・学校を通して登録する人は、他校での活動を希望していない。(各学校で独自に登録しているところもある。) ・実際のボランティアの状況は適宜調査をすることで把握しているが、定期的なものにすることが必要か検討する。
---------	---

問題解決のための方策	・各学校のニーズに応じて登録を進め、状況把握方法を工夫する。
------------	--------------------------------

予算要求等今後の方針	・各学校での実績から本年度同様とする
------------	--------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	実績がある地域人材を狛江市全体の教育活動に還元できることが望ましいと思う。「他校での活動を希望していない。」ということだが、教育委員会として何か働きかけは出来ないのだろうか。教育委員会として展望を持って取組んでもらいたい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 21

事務事業名	学校図書館支援センター推進事業	区分		
		行政 <b>(政策)</b>	基礎的・義務的 <b>(計画)</b>	<b>(新規)</b> 継続

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校図書館活用の推進及び読書指導の充実を図る。		
評価年度に達すべき目標	文部科学省が実施主体として行う学校図書館支援センター推進事業を受託し、狛江市立小中学校全体の学校図書館資源を有効に活用する学校図書館の効果的な運営の在り方等について、調査研究を行う。		目標に対する成果の達成度  <b>(A)</b> B・C・D
評価年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の機能を活用した学習指導や活動に係る情報を収集して学校へ提供した。</li> <li>・学校図書館間や中央図書館との連携を図るために支援した。</li> <li>・学校図書館の地域開放を促進するために、地域人材等を活用した。</li> <li>・司書教諭をはじめとする関係教職員の研修や情報交換を行った。</li> </ul>		
評価年度に達した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域視察などで情報収集した資料(17種類、総数20)を整理し、閲覧を可能にした。地域人材リストを作成し学校に提供した。推薦図書利用のコーディネートができた。</li> <li>・調査研究協力校小学校1校、中学校1校の調査集計分析を実施し結果を全校に配布することができた。</li> <li>・学校図書館活用協議会を5回実施し資料・情報の提供及び活動充実の協議ができた。</li> <li>・支援センター図書108冊購入及び貸し出しをした。センターだよりを4回発行し情報提供ができた。</li> <li>・授業実践事例集を作成し各校に提供することができた。</li> </ul>		

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
		2,853	2,664

A:評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B:評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C:評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D:評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館活用のための資料は継続配布が必要である。</li> <li>・担当者協議会を継続する。</li> </ul>
問題解決のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者協議会で、図書館活用についての情報交換を確実に進行。</li> <li>・各学校の司書教諭と学校司書臨時職員との合同の会を設定する。</li> </ul>
予算要求等今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度で国庫補助事業が終了する。引き続き学校図書館「指導の手引き」を副読本関係費に計上しておく。</li> </ul>
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	<p>国庫補助事業が終了することだが、学校図書館活用の推進及び読書指導の充実を図ることは、これからも必要だろう。引き続き担当者協議会を継続実施していくことであるが、関係者の情報交換、情報共有は大切なことである。教育委員会として位置づけをしっかりとって取り組んでほしい。</p>

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 22

事務事業名	夏季施設関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	安全で充実した校外学習の実施と保護者の負担軽減を図る。
----	-----------------------------

評価年度に達すべき目標	校外活動をとおして自然体験や集団行動の体験を積ませるために、小学5年で実施する夏季施設に参加する児童に対し、補助金を交付することによって、保護者負担の軽減を図る。	目標に対する成果の達成度  A B・C・D
評価年度の取組	・自然体験、集団宿泊体験を充実させていくために小学校6校が夏季休業中に計画・実施する校外学習の内容や安全体制をを事前届出で確認した。 ・小学校5学年、2泊3日の校外学習に対しての保護者負担軽減のために、一人7,000円の補助を行った。	
評価年度に達した成果	・小学校6校とも小学校5学年、2泊3日、夏季休業中に事故なく実施できた。事業目的を達成できていることが各学校の校長からのヒアリング等で把握できた。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	5,758	5,618	6,580

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・小学校6校の夏季施設による校外学習内容はそれぞれ異なっているので、事前の届出により目的に即した活動や安全管理体制等の確認を実施しているが、今後共十分に行うことが大切である。 ・事務手続きが円滑に進めらるよう配慮する必要がある。
---------	---

問題解決のための方策	・年度当初に事務手続き等の内容について文書配布とともに説明し、さらに看護師や指導員の契約等にかかわる内容を明確に文書で示し、遺漏がないようにしていく。
------------	---

予算要求等今後の方針	・児童数を精査し補助総額を算出するとともに、看護師等の保険加入の経費も計上しておく。 ・今後も保護者負担軽減のために補助額を確保していく。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	狛江市は、校外学習や宿泊学習に利用する施設を持たない代わりに、保護者負担軽減措置が取られていることだと理解している。また、安全管理体制の一環として看護師を随行させていることは評価してもよいと思う。引き続き財政措置をお願いしたい。
----------------------	--



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 23

事務事業名	移動教室関係費(小学校)	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	安全で充実した移動教室の実施と保護者の負担軽減を図る。		
評価年度に達すべき目標	校外の豊かな自然や文化に触れる体験、集団活動のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積ませるため、小学6年で行う日光移動教室に参加する児童に対し、補助金を交付することによって、保護者負担の軽減を図る。		目標に対する成果の達成度  ○ A · B · C · D
評価年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学習、集団宿泊体験充実のための移動教室の保護者負担軽減のための補助を行った。(小学校6学年一人当たり8,000円)</li> <li>・小学校6校の6学年が日光移動教室を計画に沿って、安全で充実した活動をするよう事前届出で確認をした。</li> </ul>		
評価年度に達した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校6校全校が授業日に日光移動教室を実施した。歴史学習、集団宿泊体験等を安全に充実して行うことができるようにするために、事前の校外学習届けを精査し指導助言をした結果、事故なく行え、児童は目的を達成できたことを校長などから聞き取って把握した。</li> </ul>		

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	5,430	5,289	5,074

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの校外学習届けにより、目的にそった安全な活動が実施できるか確認しているが、さらにその助言・指導を十分行うことが必要である。</li> <li>・事務手続きが円滑に進められるよう配慮する必要がある。</li> </ul>
---------	---

問題解決のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から校外学習届の期限を守って提出してもらい、十分内容等を確認し、不明点や不足点は指導・助言をする。</li> <li>・年度当初に事務手続き等の内容について文書配布とともに説明し、さらに看護師や指導員の契約等にかかわる内容を明確に文書で示し、遺漏がないようにしていく。</li> </ul>
------------	---

予算要求等今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数を精査し補助総額を算出するとともに、看護師等の保険加入の経費も計上しておく。</li> <li>・今後も保護者負担軽減のために補助額を確保する。</li> </ul>
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	<p>狛江市は、校外学習や宿泊学習に利用する施設を持たない代わりに、保護者負担軽減措置が取られていることだと理解している。また、安全管理体制の一環として看護師を随行させていることは評価してもよいと思う。引き続き財政措置をお願いしたい。</p>
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 24

事務事業名	部活動助成	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	教育効果の高い中学校の部活動を推進するため、専門的な指導ができる外部指導員を配置し、顧問となる教職員を支援する。
----	--

評価年度に達すべき目標	・4つの中学校において、外部技術指導員と顧問指導員の活用や大会参加をとおして、部活動の内容向上と活性化を図る。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	・学校の実情に応じて外部技術指導員や顧問指導員活用及び効果的な大会参加ができるよう、年度当初に各学校に予算額を示し、執行の手続き等を滞りなく行う。	
評価年度に達した成果	・外部指導員配置者21名(複数校担当者あり)外部顧問指導員2名を配置し、それぞれの学校で必要とされた部活動の実施ができた。 ・中学校4校の教員の多くが部活動に熱心に取組み大会等に参加し、生徒の達成感があることを校長等からの聞き取りで把握した。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	4,173	6,329	4,112

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・各学校の教員が熱心に指導していることや顧問指導員になる外部人材が見つからないなどの理由から、外部技術指導員の要請の方が多くなってきている。 ・大会参加後に学校から予算不足等についての相談ができたことがあった。
---------	--

問題解決のための方策	・学校のニーズをとらえ、技術指導員と顧問指導員のバランスをとった予算措置をする。 ・必要に応じて学校が事前に大会参加について相談ができるようにする。
------------	---

予算要求等今後の方針	・外部指導員報償を増額して、さらに安全で充実した部活動の支援をしていく。
------------	--------------------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	中学校の部活動の役割は高く評価されていることと思う。しかしながら、学校や保護者の負担は大きい。人的支援を含めて財政措置が必要不可欠であろう。重要視されてよい事業である。狛江市では、全国大会出場などの際に、補正対応をしていると聞いているが、そうした対応についても記述がほしい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 25

事務事業名	移動教室関係費(中学校)	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	安全で充実した移動教室の実施と保護者の負担軽減を図る
----	----------------------------

評価年度に達すべき目標	校外の豊かな自然や文化に触れる体験、集団活動のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積み重ねるため、中学2年で行う移動教室に参加する生徒に対し、補助金を交付することによって、保護者負担の軽減を図る。	目標に対する成果の達成度   Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	・校外学習実施により自然体験、宿泊体験充実、保護者負担軽減(一人あたり8,000円)のための補助を行った。 ・移動教室 2学年 2泊3日授業日に実施 目的地は学校によって異なっているが、事前に校外学習届で安全確認をした。	
評価年度に達した成果	・4つの中学校の2学年2泊3日授業日に安全に実施することができ、生徒が充実した学びをもったことを報告等から確認した。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	3,496	3,768	3,775

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・4校の目的地や実施内容が異なるので今後も事前の届出で確認し、必要に応じて指導・助言を行う。 ・事務手続きが円滑に進められるよう配慮する必要がある。
---------	---

問題解決のための方策	・年度当初に事務手続き等の内容について文書配布とともに説明し、さらに看護師や指導員の契約等にかかわる内容を明確に文書で示し、遺漏がないようにしていく。
------------	---

予算要求等今後の方針	・生徒数を精査し、補助総額を算出するとともに、看護師等の保険加入の経費を計上しておく。 ・今後も保護者負担軽減のために補助額を確保する。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	狛江市は、校外学習や宿泊学習に利用する施設を持たない代わりに、保護者負担軽減措置が取られていることだと理解している。また、安全管理体制の一環として看護師を随行させていることは評価してもよいと思う。引き続き財政措置をお願いしたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

2 26

事務事業名	修学旅行関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	安全で充実した修学旅行の実施と保護者の負担軽減を図る。
----	-----------------------------

評価年度に達すべき目標	義務教育の総括として見聞を広めるとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むための修学旅行に参加する中学3年の生徒に対し、補助金を交付することによって保護者負担の軽減を図る。	目標に対する成果の達成度   Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	・校外学習による歴史学習、集団宿泊体験等充実とともに安全管理ができていないか、事前の校外学習届で確認し、必要に応じて指導・助言をした。 ・3学年、2泊3日の修学旅行にかかる費用の保護者負担軽減(一人あたり8,000円)のための補助を行った。	
評価年度に達した成果	・各中学校(奈良京都方面3校、東北方面1校)が修学旅行を安全に実施でき、その内容が充実していたことを事後の報告等で確認した。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	3,572	3,455	3,627

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・各学校の計画を尊重し、今後も安全や活動内容充実について指導・助言を行っていくことが必要である。 ・事務手続きが円滑に進められるよう配慮する必要がある。
---------	---

問題解決のための方策	・各学校の実施状況を様々な方法で把握していく。 ・年度当初に学校委託内容について文書配布とともに説明し、さらに看護師や指導員の契約等にかかわる内容を明確に文書で示し、遺漏がないようにしていく。
------------	---

予算要求等今後の方針	・今後も保護者負担軽減のために補助額を確保する。
------------	--------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	交通費を含めて保護者の負担がかなり大きいと、校外学習や宿泊学習とは違った意味で保護者負担軽減が取られていることだと思ふ。また、安全管理体制の一環として看護師を随行させていることは評価してもよいと思ふ。引き続き財政措置をお願いしたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号 3 1

事務事業名	学校開放	区分		
		行政 <b>(政策)</b>	基礎的・義務的 <b>(計画)</b>	新規・ <b>(継続)</b>

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校施設を社会教育の振興に供する。学校施設の開放を通して児童等の健全な心身の発達に寄与する。土曜日等に実施される学習・文化活動、スポーツ活動などを通して、心身に障がいのある児童・生徒等が知己活動への参加・充実・促進を図る。
----	---

評価年度に達すべき目標	学校施設をより多くの団体の活動場所とする。児童に遊び及び地域交流事業を提供する。心身に障がいのある児童・生徒等が地域活動事業に参加できるようにする。	目標に対する成果の達成度     <b>(A)・B・C・D</b>
評価年度の取組	社会教育関係登録団体に学校施設を開放した。土曜日等に児童の遊び場開放等を実施した。心身に障がいのある児童・生徒等が参加できる地域活動事業を実施した。	
評価年度に達した成果	・学校体育館開放 延利用団体数2,482、学校グラウンド開放 延利用団体数2,964、 特別教室等開放 延利用団体数447 ・遊び場開放延参加人数1,479人、学校開放地域交流委員会 6校で各種イベントを実施 ・遊びの会:プール教室、料理教室、ポーリング等を実施 ・ふれんずシップ:バスハイク、クリスマス会等を実施	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	3,785	12,638	3,196

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	学校施設開放で学校側から利用団体のマナーに関するクレームが指摘されている。
問題解決のための方策	「狛江市社会教育の今後のあり方について(答申)」に基づき、社会教育委員の会議で検討を行う。
予算要求等今後の方針	放課後子ども教室を土曜日に全校実施のため、遊び場開放は児童青少年部へ移管する。
自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	点検・評価の視点がずれているのではないかと。利用団体のマナーについては、利用者懇談会などを設定し、理解を求めていけばよいように感じる。社会教育の視点から学校開放の問題点・課題点を抽出してほしい。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 2

事務事業名	こどもかけこみ110番	行政	基礎的・義務的	新規
		(政策)	(計画)	(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	PTA連合会かけこみ110番実行委員会の協力を得て、子どもたちの学校外での安全確保に努める。
----	--

評価年度に達すべき目標	実行委員会の協力の下、呼びかけ活動を強化し、プレート設置協力者の拡充を図る。	目標に対する成果の達成度  ○A・B・C・D
評価年度の取組	・各校3月から4月にかけて、新入生の保護者を対象にプレートの設置協力をお願いした。 ・設置者のアンケートを実施し、かけこみ事例を把握した。	
評価年度に達した成果	該当事案もなく、抑止効果を発揮している。設置協力者数1,085人(21年4月末現在)	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	358	603	210

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	各校のPTAの役員がアンケートを行うため、プレート設置者の所に個別訪問する際、本当に関係者なのか疑われることがある。
---------	--

問題解決のための方策	アンケート実施について事前に周知する方法を検討していく。
------------	------------------------------

予算要求等今後の方針	前年同様
------------	------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	市民、地域住民の理解と協力がなければ成り立たない事業である。PTA連合会が取組んでくれているが、市の関与がプレート作成だけに見えるのは残念である。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 3

事務事業名	青少年育成事業補助金	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	青少年育成団体に、補助金を交付することにより、青少年の健全な育成を図る。
----	--------------------------------------

評価年度に達すべき目標	青少年育成団体の活動が、充実・発展できるようにする。	目標に対する成果の達成度  A・B・C・D
評価年度の取組	二つの団体に5万円ずつ補助金を交付する。	
評価年度に達した成果	・交付団体: 狛江市ボーイスカウト連絡協議会、狛江市少年野球連盟 ・交付内容: 狛江市少年野球連盟 市内、市外大会の参加費等 狛江市ボーイスカウト連絡協議会 多摩川スカウトフェスティバル等の事業費等	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
		100	100

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	19・20年度とも同じ団体に交付していて、この二団体以外の申請がない。
---------	-------------------------------------

問題解決のための方策	周知方法を検討していく。
------------	--------------

予算要求等今後の方針	・前年度同様 ・平成23年度までの補助とし、平成24年度からの補助については、平成23年度に見直す。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	補助団体の状況から、見直す時期に来ているように感じる。必要性について検討すべきであろう。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 4

事務事業名	地域交流図書室やさきやま文庫読書推進事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	次世代を担う子どもたちに、3小の図書室を開放し、お話し会や工作などを通じて、健全育成に寄与する。
----	--

評価年度に達すべき目標	親子で参加してもらい、居場所づくりや地域活動の場を提供する。	目標に対する成果の達成度  A・B・C・(D)
評価年度の取組	お話し会、手づくりの作品、絵本作り等を開催することにより、居場所づくりや地域活動の場を提供した。	
評価年度に達した成果	・子どもたちの居場所づくりとして一定の効果があった。 ・お話し会、手づくりの作品作成、絵本作り等を9回開催した。 延参加人数134人	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	614	623	191

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	参加者が少ない。
---------	----------

問題解決のための方策	広報活動の方法及び企画立案について、検討していく。
------------	---------------------------

予算要求等今後の方針	前年同様
------------	------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	前年度同様「参加者が少ない。」と問題点・課題点に挙げられている。必要性について精査すべきだろう。
----------------------	--



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 5

事務事業名	子ども科学体験事業(子ども体験塾)	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	次世代を担う子どもたちに、科学体験教室を通して、科学の楽しさを体感させ、科学を身近に感じる心を育てるとともに科学に対する興味や探究心を育む。
----	--

評価年度に達すべき目標	科学教室・ものづくり教室を通して、科学をより身近なものと感じる心を育てる。	目標に対する成果の達成度  Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	毎年度、応募多数のため、より多くの児童が事業に参加ができるよう同内容を2日に分けて「こまえ科学体験塾」を実施した。	
評価年度に達した成果	参加者 1日目:55人(内保護者 19人) 2日目:56人(内保護者 20人) 抽選により参加者を決定 内容 ものづくり「タワッチくんと遊ぼう」、かがくあそび「紙ベッタンの謎」、「自動噴水管」 子どもの声 「タワッチくんと遊ぼう」が一番楽しかった。電気工作がすきだし、まっすぐ進むように工夫したのが楽しかった。タワッチくんが回転するのがおもしろかった。えんぴかんで水をだすのがおもしろかった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	300	400	600

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	・応募者が多く、電話受付で混乱が生じた。 ・平成21年度で市長会の補助事業が終了する。
---------	--

問題解決のための方策	・はがきによる応募など募集方法を検討する。 ・財政事情を踏まえつつ、22年度以降について補助金に頼らない事業展開も検討する。
------------	---

予算要求等今後の方針	・21年度は市長会の補助事業として継続していきたい。
------------	----------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	理科教育振興の視点から社会教育としても取組むべき事業であると思う。市として継続事業として検討するべきではないか。評価とは、本来、事業に対する理念や考え方に基づいて、実際の取組み内容を点検・評価するものである。募集方法について総括することは事務的には必要だが点検・評価の対象としては瑣末なことだと思う。全体的に言えることなので、留意願いたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 6

事務事業名	文化財保護関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	文化財の保存・活用を行い、次世代に継承する。
----	------------------------

評価年度に達すべき目標	市文化財の指定、調査及び報告書の発行、保護管理などを行いながら、資料や情報の蓄積を図り、文化財の保存と活用に努める。	目標に対する成果の達成度  <b>Ⓐ・B・C・D</b>
評価年度の取組	市文化財の指定等、報告書の発行、市有地(文化財関係)の保護管理、展示会の開催。	
評価年度に達した成果	・文化財調査報告書第24集の発行、 ・兜塚古墳・亀塚古墳・教育発祥の地周辺などの樹木せん定などの保護管理 ・狛江の遺跡展の開催、市文化財の解除(石井家住宅主屋・長屋門・土蔵の国営昭和記念公園への移築復元に伴う)。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	907	653	1,029

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	市民からの寄贈資料や収集資料などを保存管理する場の確保と、保存・活用・継承していく施設(博物館)の整備が必要である。
---------	--

問題解決のための方策	資料の収集・保存・活用の拠点となる施設については中長期的な検討が必要である。
------------	--

予算要求等今後の方針	文化財など資料の保存保管、また活用する施設の整備が懸案事項だが、当面は現状維持を図るため文化財の保護に必要な予算を要求していく。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	資料の価値を市民に勧化するため、収集・保存・活用の拠点となる施設を整備することが最終的な目標だと思う。目標達成にいたっていないことから進捗度をAとするのはどうなのか。目標実現は難しいであろうが、教育委員会として一步一步前進する努力をしてほしい。また、施設整備までの間に資料の価値を活かすことも検討すべきであろう。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 7

事務事業名	埋蔵文化財保護関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	埋蔵文化財を良好な状態で保存し、次世代に継承する。
----	---------------------------

評価年度に達すべき目標	市内には68か所の遺跡があり、住宅建築などに伴う埋蔵文化財に関する照会や事業主との事前協議を行い、試掘調査などを実施し、その保護に努めるとともに、出土品の保管・保存に努める。	目標に対する成果の達成度   Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	埋蔵文化財に関する照会や遺構有無確認調査(試掘)の実施、事業主との事前協議。出土品の保存処理。	
評価年度に達した成果	・三長東遺跡他5件の試掘調査の実施と4件の発掘調査の事前協議 ・年間808件の遺跡の照会 ・発掘調査で出土した鉄製品・銅製品6点の保存処理	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,552	1,382	1,341

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	発掘調査の出土品は年々増加しており、出土品が収蔵・保存・活用できる施設(博物館)の設置が必要である。
---------	--

問題解決のための方策	資料の収蔵・保存・活用の拠点となる施設については中長期的な検討が必要である。
------------	--

予算要求等今後の方針	前年同様
------------	------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	文化財保護と同様である。学校に展示スペースを確保するなど経過措置を検討してはどうか。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 8

事務事業名	郷土芸能保存会補助	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	地域に守り伝えられている祭りばやしの保存、継承
----	-------------------------

評価年度に達すべき目標	保存会に補助金を交付し、郷土芸能である祭ばやしの保存・継承を図る。	目標に対する成果の達成度  (A)・B・C・D
評価年度の実施	小足立ばやし保存会に補助金を交付し、郷土芸能である小足立ばやしの保存・継承を図る。	
評価年度に達した成果	小足立ばやし保存会に補助金を交付し、はやしの道具である長胴太鼓と締太鼓の修繕や山車の修繕が図られ、定期的な練習により技術も向上し、市民まつりや古民家園の元日開園、保育園などで市民への公開も行われている。このような修繕には多額の経費を要するので、今後も各保存会に助成し、環境整備を行うことは必要である。	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	150	150	300

問題点・改善点	祭ばやし保存会は、経済的な基盤が弱く、道具の購入や修繕などの整備が思うようにいかない。
---------	---

問題解決のための方策	郷土芸能である祭ばやしの保存・継承を図るためには継続的に保存助成を行うことが必要である。
------------	--

予算要求等今後の方針	継続的な支援が必要であり、保存会への補助金交付を継続していきたい。
------------	-----------------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	いわゆる市の無形文化財の保護への補助である。財政事情などから、十分な補助ができていないという問題点・課題点があるように見受けれる。進捗度Aと評価はできないのではないか。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 9

事務事業名	古民家園指定管理業務費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	古民家を文化遺産として保存、継承するとともに、ふるさとの歴史や文化に親しみ、伝統文化の体験学習などを通して、子どもから高齢者まで世代を超えた交流や、市民が積極的に参加できる、ふるさとづくりの拠点とする。
----	---

評価年度に達すべき目標	市指定文化財である古民家が良好な状態で保存・維持することにより、市民の文化財や地域の文化に対する理解と親しみが深まり、また、市民の世代間交流が深まり、市民の手で地域文化が継承・発展される。	目標に対する成果の達成度  ①・B・C・D
評価年度の取組	指定管理者による古民家園の管理運営を行う。	
評価年度に達した成果	指定管理者により、古民家園の維持管理が良好になされ、五月人形や七夕、十五夜などの年中行事、子どもの日やむいから市、元日開園などのイベント、狛江学や寄席、そば打ちなどの各種行事を開催、小学校の体験学習の受け入れなどが、市民やボランティアにより行われ、年間2万4千人の入園者を数える。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	7,587	7,587	7,587

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	主屋は歴史的建造物であり、経年変化に応じて年々傷みが生じてくる。
---------	----------------------------------

問題解決のための方策	市の文化遺産として応時の趣を残しつつ、適切な保存管理を行うため施設の計画的な修繕が必要である。
------------	---

予算要求等今後の方針	今後は茅葺屋根等の補修を行う必要があることから、必要な経費を要求していく。
------------	---------------------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	建物の営繕についてのみ問題点・課題点があるのでしょうか。さまざまな視点から点検・評価が必要である。また、財政事情などから、十分な修繕ができていないという問題点・課題点があるように見受けれる。進捗度Aと評価はできないのではないか。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 10

事務事業名	市民健康レクリエーション	区分		
		行政 <u>政策</u>	基礎的・義務的 <u>計画</u>	新規・ <u>継続</u>

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民の体力維持、健康増進を図る。
----	------------------

評価年度に達すべき目標	市民の体力維持、健康増進を図り、スポーツは特に中高年の生きがいつくりや健康づくりに効果的であることから、医療費縮減や介護予防等に寄与する。	目標に対する成果の達成度   <u>A</u> ・B・C・D
評価年度の取組	・個人開放(バドミントン、卓球、バスケットボール、バレーボール、ビーチボール) ・トレーニング及びエアロビクス ・健康体操、シルバー体操の実施	
評価年度に達した成果	・個人開放(5種目) 利用者25,420人 ・トレーニング室 利用者15,622人 ・エアロビクス、シルバー体操、健康体操の3教室を実施 利用者7,561人	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	6,994	7,825	7,511

問題点・改善点	個人開放について、教室等の実施種目や実施時間帯により参加者が少ないものがある。
---------	---

問題解決のための方策	個人開放種目や実施時間帯を見直しや、PR方法の見直しを図る。
------------	--------------------------------

予算要求等今後の方針	平成21年度から指定管理者が事業を継承し実施するため、必要経費を体育施設の指定管理費に計上する。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	参加者が少ないものがあるとの記述だが、こういったものなのか具体的に明記すべきであろう。それを踏まえて、進捗度Aと評価することは矛盾しているように思える。点検・評価について改善を求めたい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 11

事務事業名	少年少女スポーツ振興	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	青少年の健全育成及びスポーツ振興を図る。
----	----------------------

評価年度に達すべき目標	小中高生対象のスポーツ教室や大会を実施し、スポーツを通じて、青少年の健全育成とスポーツの振興を図る。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	少年少女スポーツ大会及びフットサル教室、バレーボール教室を実施した。	
評価年度に達した成果	野球(3・4年生9チーム147人、5・6年生9チーム123人)サッカー(3年生10チーム154人、4年生11チーム151人、5・6年生12チーム124人)、剣道(小学生23人、中学生男子10人、女子4人、高校生男子9人)綱引き(3～6年生12チーム106人、3・4年生14チーム130人)バドミントン(小学生26人、中学生18人、高校生3人)の5大会を実施 バドミントン(25回、小4～6 延べ413人)、フットサル(30回、小3～6 延べ467人)、バレーボール(10回、中学生延べ112人)の3教室を実施	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	2,455	2,627	2,566

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	スポーツ教室や大会の実施種目の中には参加者の少ない種目がある。
---------	---------------------------------

問題解決のための方策	実施種目、実施方法の見直しやPR方法の再検討を行うとともに、地域住民との協働により、さらに充実を図っていくため、その受け皿として総合型地域スポーツクラブの設立を促進するなどの取り組みを行っていく。
------------	--

予算要求等今後の方針	事業実施方法等を見直し、予算要求を行う。
------------	----------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	青少年の健全育成の観点からも見直しを図りつつ、継続的に取り組んでもらいたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 12

事務事業名	市民スポーツ大会関係	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民の健康づくりや市民相互の交流の場を広げ、合わせてスポーツの振興と競技力の向上を図る。
----	--

評価年度に達すべき目標	市民を対象に、市民スポーツ大会、市民スポーツレクリエーション・フェスティバルの実施する。	目標に対する成果の達成度  A・B・(C)・D
評価年度の取組	NPO法人狛江市体育協会に市民スポーツ大会、市民スポーツレクリエーション・フェスティバルを委託し、実施する。	
評価年度に達した成果	・市民スポーツ大会15競技 参加者3,098人 ・市民スポーツレクリエーション・フェスティバル8大会 参加者1,991人	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	2,641	2,641	2,641

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	市民スポーツレクリエーション・フェスティバルは、実施種目が固定化されており、参加者は前年度より増加しているが、実施競技や場所により参加者が年により増減しており、実施競技や日程、場所等を含めた検討が必要と思われる。
---------	--

問題解決のための方策	気軽に参加しやすい競技種目の設定、実施時期、実施場所の見直しやPR方法の見直し等により、大会への参加促進を図る。
------------	--

予算要求等今後の方針	実施種目や実施方法等の見直しを体育協会とも協議をしたうえで、予算要求をしていく。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	市民の健康づくりや市民相互の交流の場として、継続的に取組んでもらいたいが、見直しは不可欠だと思う。委託実施であっても事業実施の主体として責任は放棄できないと思う。体育協会と十分協議の上、よりよい事業を実施できるよう努めてもらいたい。
----------------------	--



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 13

事務事業名	総合型地域スポーツクラブ	区分		
		行政 <b>政策</b>	基礎的・義務的 <b>計画</b>	新規・ <b>継続</b>

区分については事務事業カルテによる。

目的	スポーツ振興基本計画に基づき、平成22年までに総合型地域スポーツクラブを育成する。
----	---

評価年度に達すべき目標	総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を発足させる。	目標に対する成果の達成度  A B・C・D
評価年度の取組	総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を設置した。	
評価年度に達した成果	・平成20年5月に公募委員1名を含む9名の委員で総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を発足 ・活動内容:定例会 11回、臨時会 1回、総合型地域スポーツクラブ啓発フォーラム 1回、視察研修 3回	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
			1,118

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	活動拠点及び運営費の確保をしながら、市民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会に移行していく。
---------	--

問題解決のための方策	活動拠点の提供や運営費の確保が必要である。(スポーツ振興くじ助成事業補助金の交付申請をする。)
------------	---

予算要求等今後の方針	総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会がスポーツ振興くじ助成事業補助金により、運営をしていく。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	新しい取組みであり、困難な面も多々あることと思う。今後の推移を見守っていきたい。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

3 14

事務事業名	体育施設指定管理業務費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	(新規)・継続

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民のスポーツ及びリクリエーションの普及振興のため、体育施設を指定管理者に委ね、市民サービスの向上とコスト削減を図る。
----	---

評価年度に達すべき目標	平成21年度から指定管理者に体育施設の管理運営を委任するため、指定管理者を決定する。	目標に対する成果の達成度  Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	狛江市体育施設指定管理者選定委員会を設置し、指定管理者を選定するとともに、指定管理者移行に向けて備品整備を行う。	
評価年度に達した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狛江市体育施設指定管理者選定委員会(学識経験者2名、税理士1名、教育長、企画財政部長、教育部長で構成)1次審査(書類審査)、2次審査・プレゼンテーションにより選定</li> <li>・指定管理者の指定:狛江市体育協会・東京アスレティッククラブ共同事業体(指定期間 平成21年度から5年間)</li> <li>・指定管理者移行に向けた備品整備:卓球台、サッカーゴール(大人用、小人用)、血圧計、バレー支柱、バトミントン支柱、多目的支柱、防球フェンス等</li> </ul>	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
			5,790

問題点・改善点	指定管理に移行後、協定書に基づき、提案事項等が遅滞なく履行されているかどうか把握する必要がある。
---------	--

問題解決のための方策	業務実施状況を確認するための実地調査やモニタリング等の報告により協定等に従い適切かつ確実なサービスの提供が確保されているかを確認していく。
------------	---

予算要求等今後の方針	協定書に基づき、必要な予算を計上をする。
------------	----------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	市民サービス面で向上が見られ、総じて評判はよいと思っている。指定管理者制度であっても、事業実施の主体として責任は放棄できないと思う。指定管理制度に移行したことのメリット・デメリットについてしっかり検証する必要がある。適切な実地調査とモニタリングを通して、実態把握に努めることが重要である。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 1

事務事業名	青少年事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	学校や年齢を超えた仲間づくりを図るとともに地域の人々との交流を図る。
----	------------------------------------

評価年度に達すべき目標	学校週5日制に伴う事業として、学校では体験できない教室を開催し、公民館の利用団体などに講師を依頼することによって、地域の大人と子どもの交流を図るとともに、子どもたちが参加できる場を積極的に提供する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	子どもの広場・野外サークル・青年教室・少年少女体験教室・夏休み将棋教室・少年少女体験教室どろんCO農園を開催した。	
評価年度に達した成果	子どもの広場(1~2年生:全16回・225人、3~6年生:全16回・350人)・野外サークル(全13回・165人)・青年教室(全53回 370人)・少年少女体験教室(全12回 150人)を開催し、夏休み将棋教室(全3回・103人)・少年少女体験教室どろんCO農園(全16回・189人)を実施した。子ども・青年の居場所として公民館が定着しつつあり、おおむね好評を得ている。人数はすべて延べ人数。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,243	1,590	1,552

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	事業開催の時期、対象、内容等により、応募・参加者が多く集まる事業と一方で応募が少なく参加者を募るのに苦慮する事業がある。さらに小中学生の塾通い等による、参加者の確保が難しい面もある。また、事業内容が、他課と同様の内容にならないように考える。
---------	--

問題解決のための方策	アンケート実施や事業終了後の聞き取り調査等により、青少年のニーズを把握し、事業実施時期や事業内容の充実を図る。さらに事業のPRと広報等メディアの積極的活用を図り、他課との連絡を密にする。
------------	---

予算要求等今後の方針	青少年・青年事業の対象者・参加者にとってよりよい事業とするため、今後とも適正な予算の確保を図る。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	事業の必要性や優先度は、本来、公民館運営協議会で議論されるものであると思う。市民のために適切な運用を望んでいる。議論の際は、担当者による点検・評価を参考資料として活用してもらいたい。 なお、青少年事業の所管は複数にわたっており、総体的な実態把握をしたうえで、評価することが必要である。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 2

事務事業名	チャレンジ青年学級	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	障がいのある青年の学習・文化・コミュニケーション活動を保障する。
----	----------------------------------

評価年度に達すべき目標	障がいのある青年の学習・文化・コミュニケーション活動を保障し、仲間とともに暮らしを広げ、豊かにしていく力を育てる。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	19回の活動を通して、団体行動と平行して、学級生の障がいの程度にも合わせた活動を、指導者、ボランティアで取り組み、学級新聞「にこにこ新聞」で活動を伝え、年間のまとめとして「なかま」を発行した。	
評価年度に達した成果	年間19回のスポーツ、バンド活動、キャンプ、創作活動などを通して仲間との連帯を育み、「ボランティアのつどい」、「市民まつり」、「いべんと西河原」へ参加するなどの活動の中で地域社会とつながり、こうした社会参加が学級生の心を豊かにしている。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,477	1,475	1,645

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	障がいを持つ学級生の事業展開には、マンツーマンに近い多くのボランティアが不可欠であるが、現状としては不足である。
---------	--

問題解決のための方策	近隣大学・社会福祉協議会や利用団体など関係機関・組織との連携し、ボランティアの募集を行っていく。
------------	--

予算要求等今後の方針	無償ボランティアには、活動実費と交通費相当額を謝礼として支出していきたい。
------------	---------------------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	青少年事業と同様である。障がいのある青少年の居場所づくりとして重要であると思うが、その枠に留まらず広く交流を図ることができるとよいと思う。すでにそうした取組みがあるのならば、記述してほしい。 なお、青少年事業と同様に、総体的な実態把握をしたうえで、評価することが必要である。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 3

事務事業名	成人学習事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	生活文化の振興・社会福祉の増進
----	-----------------

評価年度に達すべき目標	実際生活に即するテーマを取り上げ、くらしを見つめる学習を進め、社会教育活動の契機とする。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	現代社会に直面する諸課題について、「市民ゼミナール」を夜間に全8回で展開した。	
評価年度に達した成果	延べ116人の受講があり、夜間の学習需要に対する一定の掘り起こしができ、アンケートでも好評であった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	209	0	154

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	「こまえ市民大学」、高齢者学習事業と対象や内容が重なる側面があり、整理とあり方が課題となっている。講座終了後の学習の継続など、地域参加への方向づけが必要である。
---------	--

問題解決のための方策	成人学習事業と高齢者学習事業を統合し、成人学習事業として年代を超え、地域や生活、仲間づくりへの取り組みを継続的に展開する。働いている成人を対象とした夜間の事業も展開し、学習需要を増大する取り組みを強化する。また、講座終了後の学習継続にむけて参加者相互の交流を図る工夫をする。
------------	---

予算要求等今後の方針	市民ニーズにあった地域や生活課題に即した多様なテーマで講座を展開できるよう同額を確保したい。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	事業の必要性や優先度は、本来、公民館運営審議会で議論されるものであると思うが、特色をもっと出して、重点化を図る必要があると思う。現代社会に直面する諸課題について取り上げたとのことだが、具体的内容を記述してほしい。市民にわかりやすい点検・評価を心がけてもらいたい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 4

事務事業名	女性セミナー	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	女性自立のための学習内容の提供
----	-----------------

評価年度に達すべき目標	女性の自立や子育ての悩みを主題とした学習機会を提供する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	女性セミナー1として、思春期の子を持つ母親を対象に8回の講座とグループワークを実施。女性セミナー2では育児期の母親を対象に保育をつけ、16回にわたり母と子の成長を目指す学習を行った。	
評価年度に達した成果	セミナー1では、思春期の難しい時期を乗り越えるにはどうしたら良いか、各級の第一線で活躍する講師陣による講義やグループワークにより、自主グループも誕生し成果を出せた。また、セミナー2では、参加動機などをもとに助言者との緊密な打ち合わせを行い、学習の進め方に配慮したことにより、出席率が上がり、自主グループも誕生して一定の成果があった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,143	987	721

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	子育て中の同じ悩みを持つ母親同士が出会えるよう、参加を促進する必要がある。
---------	---------------------------------------

問題解決のための方策	PTAとの連携やあらゆるメディアを通して参加を呼びかけるとともに、引き続き、テーマを吟味し、参加者の出席意欲がたまるような内容の充実に努める。
------------	---

予算要求等今後の方針	引き続き、現状の中で工夫していく。
------------	-------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	「あらゆるメディアを通して参加を呼びかける。」ことは可能であろうか。実務に即した具体的な方策を検討すべきだろう。社会的意義から目的を見出していることと思うが、現状としては「女性の自立」から「子育ての悩みの共有、解決」に向かっているように感じる。目的や目標などを見直し、新たに設定する時期にあるのかもしれない。男女平等や参画といった視点から検討してもよいのではないか。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 5

事務事業名	学習グループ保育	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	母子の学習機会の援助
----	------------

評価年度に達すべき目標	子どもたちが仲間と楽しい時間を過ごし、成長できるよう配慮する。親も運営会議などでよりよい保育室の運営に参加することで、自分の育児や社会性を振り返り、自らの成長を図る。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	毎週水、木曜日の午前10時から正午に開室(夏期・年末年始を除く)。保育室学習会(運営会議)の開催、保育室だよりの発行。	
評価年度に達した成果	6グループ21人が継続して保育に参加した。継続した保育、ていねいな保育を行い、発達に不安がある場合は“ぱる”との連携も行い、子どもたちの成長が見られた。親も自分とわが子だけの視野をこえて成長することができ、その成果を学習記録「はじめのいっぽ」にまとめ刊行した。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	673	683	709

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	公民館活動グループ全体の高齢化もあり、若い母親が参加できるグループが限られている現状がある。空いている午後の保育室の有効活用を図る。
---------	--

問題解決のための方策	新しいグループの誕生を支援し、午後のグループ活動の援助も検討する。さらに公民館保育室の周知を図る。広く、グループ活動に参加できていない育児期の母親が出会い、地域での子育ての場として、保育室の活用を検討する。
------------	---

予算要求等今後の方針	引き続き、育児期の女性の学習活動を支えていくことが出来るよう予算を確保していく。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	学習機会の援助に止まらず、「女性セミナー」と同じ視点で取組まれているように感じる。時代背景からも、若い母親世代を広く支える視点で事業展開を考えるべきであろう。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 6

事務事業名	高齢者学習事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	高齢者の学習機会の充実及び自主グループの育成
----	------------------------

評価年度に達すべき目標	自主グループ成立と学習成果の地域社会への還元	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	「大人のステキ学」を全8回開催し、参加者相互の交流に重点をおき、館外学習会の機会を設けた。「美味しい料理基礎の基礎」を月1回・6回開催。	
評価年度に達した成果	地域参加を表に出さず、自分の暮らしを見つめる内容の講座を開設し、仲間作りにも重点をおいたところ、スムーズに自主グループを発足する事ができた。「美味しい料理基礎の基礎」では男性の参加者が多く、「来年も」との声も多く、好評であった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	233	292	300

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	高齢者学習事業、成人学習事業、こまえ市民大学の講座の違いや参加者年齢の重複など、高齢者学習事業の枠を設定することが難しい。
---------	---

問題解決のための方策	成人学習事業に統合し、「高齢者」の枠をこえて広く市民に学習機会を提供する。
------------	---------------------------------------

予算要求等今後の方針	廃止
------------	----

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	点検・評価を踏まえた上で、廃止の方針を明確にしたことを評価したいと思う。
----------------------	--------------------------------------



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 7

事務事業名	国際交流事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	外国人に継続した学習の場を提供する。
----	--------------------

評価年度に達すべき目標	外国から日本に来た方々に、日本語及び生活文化を学ぶ場として日本語教室を開催する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	夏休み期間中の8月を除く、4月から3月まで毎週土曜年間37回開催した。平常授業に加え懇親のつどい、館外活動(バスハイク)、イベントへの参加等実施し、日本語と生活文化を学ぶとともに外国人同士の交流も図った。	
評価年度に達した成果	受講者延1,028名で出身地は中国、韓国、タイ、フィリピン、アメリカ、ロシア他10カ国に及び、協力スタッフのおかげで年間37回の授業を開催し、日本語を学ぶことを通じて、国を越え受講者同士がふれあい、学びあい、連帯の輪が広がり、地域との関わりが徐々にではあるが生まれている。先生(協力ボランティア)延792名。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	300	300	300

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	外国人学習者に対して、先生(協力ボランティア)が不足している。そのため、先生の負担が増加している。
---------	---

問題解決のための方策	広報だけでなく、市ホームページや公民館だよりなど、あらゆるメディアを通じたPR活動を展開する。企業で海外経験のあるOBなどへのアプローチ。
------------	---

予算要求等今後の方針	継続して、安定した運営が出来るよう予算を確保していく。
------------	-----------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	目的と目標を混同している。外国人が日本の地域社会に溶け込むためには、語学の獲得と日本の生活文化を学ぶことが大切であろう。また、外国人を受け入れることは、開かれた地域社会として他国の文化を学ぶよい機会と捉える必要もある。地道な活動の積み重ねが国際化につながると思う。ボランティアに頼っている事業に感じるが、指導者の負担に対し、何らかの措置を検討する必要があるのではないか。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 8

事務事業名	市民劇場	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民が芸術文化を享受する機会を提供し、市民による文化創造を援助する。
----	------------------------------------

評価年度に達すべき目標	映像や音楽等の文化に気軽に親しむ機会を提供し、また市民の文化活動の育成・援助を行う。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	西河原映画会(年12回・毎月第2土曜日午前、午後の2回上映) 第12回西河原クリスマスコンサート 市民による市民のためのファミリーコンサート 公民館利用音楽団体による実行委員会と共催 16ミリ発声映写機検定、操作講習会	
評価年度に達した成果	西河原映画会(延べ入場者:2,019人) 第12回西河原クリスマスコンサート(参加:4団体、入場者101人) 16ミリ発声映写機検定(7台の検定を行い、5台の合格) 16ミリ発声映写機操作講習会(参加者:3人)	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	933	895	1,132

- A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。
- B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。
- C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。
- D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	映像ソフトの変化により(16ミリフィルムからDVDへ)16ミリ発声映写機へのニーズが減退している。ただし、映写機検定については、事業で16ミリフィルムを都立図書館から借用する必要があり、義務的な側面がある。 西河原公民館が持つホールの舞台機能を市民自身が活用できるための取り組み。市民自身が市民の活動を支える体制づくり。
---------	---

問題解決のための方策	20年度をもって16ミリ発声映写機操作講習会を打ち切る。ただし、16ミリフィルムを使用する映画会等を企画する市民に対して、都立図書館を紹介するなどのフォローをする。 舞台スタッフ講習会を検討する。
------------	---

予算要求等今後の方針	16ミリ発声映写機操作講習会の予算はなくなるが、舞台スタッフ講習会や舞台企画の充実のための予算を要求して行きたい。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	クリスマスコンサートといった独自の事業展開は評価したい。映画上映が主な事業の中心であるが、サービスの担い手として考えた場合、官民の役割分担としては微妙な位置づけだろう。しかしながら、少数派であるだろうが、メディアの発達を享受できない人たちのために、映像や音楽等の文化に気軽に親しむ機会を設ける意義はあると思われる。マンネリ化しないよう留意してもらいたい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 9

事務事業名	公民館交流事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民の社会教育活動の発展のため、活動の成果を発表し、交流することにより、地域への公民館活動の発信の場とする。
----	--

評価年度に達すべき目標	一年間の活動の発表や交流の場として多くの公民館利用団体や公民館事業参加者がつどい、公民館活動の発信の場とする。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	第20回いべんと西河原(2月21日、22日、28日、3月1日の4日間)、第23回中央公民館のつどい(3月11日～15日)を実行委員会を組織して実施。	
評価年度に達した成果	いべんと西河原は、70団体の参加で実行委員会を構成し、延べ11,859人の参観者を得た。中央公民館のつどいは、92団体で実行委員会を構成し、5,249人の参観者を得た。利用団体の活動成果発表の場として目標になり、また多くの市民に日頃の公民館活動に触れてもらう機会及び交流の場となっている。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	249	249	250

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	参加団体により実行委員会を組織し運営に当たっているが、事務局任せのところもあり、自分たち自身が創り上げるという主体的、積極的な姿勢も欲しい。
---------	--

問題解決のための方策	実行委員が実際に関わる場面を多く作り、参加を促していく。
------------	------------------------------

予算要求等今後の方針	現有予算を維持していきたい。
------------	----------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	「事務局任せ」を問題にするよりは、自主的取組みを促す方向性を具体的にしたほうがよいと思う。「事務局任せ」ということは、本来の公民館のあり方に矛盾するのではないだろうか。利用者の主体的な取組みにつながらない場合は、大幅に見直すべきであろう。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 10

事務事業名	図書室	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民の学習活動の援助、情報提供を図る。
----	---------------------

評価年度に達すべき目標	資料の一層の充実	目標に対する成果の達成度  Ⓐ・B・C・D
評価年度の取組	一般書の整備にとどまらず、和泉小学校との連携を図り、児童書等の充実にも力を入れた。児童書の新着本を「西河原おすすめ本」として和泉小学校の図書室に貸出を行った。小学生に人気の本や学校でのニーズの高い本など、和泉小学校の司書臨時職員との連絡を密にした。	
評価年度に達した成果	資料の充実と整理は順調に行っている。和泉小学校との連携の一環として、和泉小学校の保護者によるおはなし会を行い、小学生の「地域の図書室」利用の促進を図った。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	7,234	7,768	7,520

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	地域の中の図書室としての機能は順調に推移している。今後、西河原公民館図書室の特色であるAV資料や、公民館に併設する図書室として学習活動の援助にも力を入れたい。
---------	---

問題解決のための方策	公民館事業に関わる講師の著書や、関連の本なども収集し、学習活動の援助を行う。平成18年度にDVDを導入し、しばらく資料数が少なかったが、徐々に資料数も増えつつあるので、西河原公民館図書室の特色としてPRもしていきたい。
------------	---

予算要求等今後の方針	学習活動の援助を目標とした資料の収集を目指し、引き続き資料の一層の充実を図っていく。また読書活動団体や和泉小学校との連携をとりつつ、読書活動の援助を行うために同額を確保したい。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	西河原公民館に図書室を設置していることに明確な位置づけがあったほうがよいと思う。たぶん、中央図書館や地域センター図書室の配置から推察すれば、西河原図書室がなかった場合、地域的な空白が生まれるだろう。すなわち地域の図書室としての役割は重要である。和泉小学校との連携は、その点を考えると評価できるが、進捗度Aの評価は甘くないだろうか。「地域の中の図書室としての機能は順調に推移している。」との記述がせつかくあるが、目的、目標の内容が薄い。整理すべきではないだろうか。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 11

事務事業名	こまえ市民大学	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	市民による市民のための学習の場の創造
----	--------------------

評価年度に達すべき目標	こまえ市民大学運営委員会の企画・実施により、市民の多様化、高度化する学習要求に応える学習の機会を提供する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	運営委員による企画・実施により、10講座・17回、開催した。	
評価年度に達した成果	例年どおり、市内にある身近な病院や事業所(慈恵第三病院、電力研究所)と連携し、健康や環境問題といった身近な問題や歴史・文化などを取り上げた講座を展開し、また今年度は、運営委員に元マスコミ関係者(新聞記者)が加わり、現役の記者に時事問題をタイムリーに語ってもらう講座も出来、取り上げる内容の幅が広がった。延べ732人の受講者があり、概ね好評であった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	532	579	572

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	企画・実施に追われ、全体的な課題について検討を深める等の余裕がない。 講座への若い層の参加が少ない。企画サイドの運営委員会にも若い層がないため、若い世代の興味を引く斬新な企画が難しい。
---------	---

問題解決のための方策	シリーズ企画であらかじめ年間にわたって大枠を配分するなどの計画的実施を検討する。 運営委員会の中だけでなく、若い層を取り込んで企画する方策なども運営委員会で検討を進める。
------------	--

予算要求等今後の方針	当面、維持。今後、市民の学習要求に応えるためにも、講座企画が豊かにできるよう、予算確保していきたい。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	「全体的な課題について検討を深める等の余裕がない。」のは、本末転倒である。あれもこれもではなく、事業内容の重点化を図り、余裕をもって取組めないだろうか。また、若年層の参加があまりないように感じる。運営委員会などがあると思うが、若年層を取り込んでいくような工夫ができないか検討してほしい。見直す時期にあるのかもかもしれない。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

4 12

事務事業名	情報学習事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	西河原公民館に設置されているパソコン室を活用し、市民の情報学習をすすめる。
----	---------------------------------------

評価年度に達すべき目標	使用許可カードを発行した会員で組織される「西河原公民館パソコン室使用者協議会」などの活動により、市民自身の自主的で活発な活用を促す。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	使用者協議会の活動として、会員の休館日を除く火、水、金、土曜日午前の勉強会、市民に向けた「いべんと西河原」での体験コーナー、体験コーナーでの希望者に対する初歩講習会を開催した。	
評価年度に達した成果	許可カード発行(協議会会員)が122人となる。勉強会は年間延べ115回行い、体験コーナーは140人、初歩講習会参加は36人(抽選)の参加者があった。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	379	425	452

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	年々会員が増え、勉強会を拡充はしているが、物理的(パソコン室のスペース、パソコンの台数)に要求に応えられていない側面はある。しかし一方、まだ稼働していない曜日、時間帯も多い。また、広く市民にむけての開放も求められている。
---------	--

問題解決のための方策	使用者協議会自体の運営体制の強化を含め、パソコン室の運営体制の整備にむけて使用者協議会と協議をすすめる。
------------	--

予算要求等今後の方針	ハード・ソフトの進化に伴い、学習環境整備ができるように予算要求をしていきたい。
------------	---

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	「西河原公民館パソコン室使用者協議会」の会員でない限り、実質的に情報学習室の使用ができないように見受けられる。若年層の利用状況は把握しているのか。公民館として、いろいろな意味で排他的な活動にならないよう注視していく必要がある。利用の拡大を図ることをお願いしたい。 なお、パソコンが不足しているとのことだが、利用者の全ての要求に応えることが果たして必要なのか十分精査してほしい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

5 1

事務事業名	読書推進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	幼児・児童から大人まで、又、健常者・障がい者を問わず全ての市民に本と触れ合い親しんでもらう。
----	--

評価年度に達すべき目標	各種事業への参加やサービスの利用の促進	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	本を読めない小さな子どもを対象としたお話会や視覚障がいの方を対象としたカセットテープやCDによる朗読サービス、図書館に来館できない方へ宅配サービスを行うなど読書推進活動に努めた。	
評価年度に達した成果	事業への参加等が促進された。 ・子どもおはなし会 : 子ども 441人・保護者 165人 ・親子で楽しむおはなし会 : 子ども 624人・保護者 619人 ・対面朗読者 : 80人 ・宅配サービス : 67回	

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	170	256	400

問題点・改善点	大人を対象とした興味・関心を引く事業が少ない。障がい者サービスを充実する必要がある。
---------	--

問題解決のための方策	大人を対象とした文学散歩等の事業を復活する。障がい者サービスの充実のため、先進自治体の取組みなど、情報収集や手法について研究・検討する。
------------	--

予算要求等今後の方針	文学散歩や講演会等の事業復活に伴う経費を要求する。
------------	---------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	前年度に比べ、一步踏みこんだ内容で点検・評価ができています。前年度の取組みが積み残し課題となっている。財政事情もあると思うが、所管として前進を期待したい。
----------------------	---

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

5 2

事務事業名	ホームページ運営費	か		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	ホームページにより、市民への図書館サービスの向上を図る。
----	------------------------------

評価年度に達すべき目標	ホームページの利用者の拡大を図る。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	図書館利用案内、行事のお知らせ等の図書館情報を公開しインターネットを利用した資料検索、予約受付を行いサービスの向上と利用拡大を図る。	
評価年度に達した成果	アクセス件数の増加 16年度 62,200件 18年度 80,101件 19年度 96,749件 20年度 103,244件	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	4,200	2,586	2,255

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	アクセス件数は増加しているが、利用者にとってより活用しやすい検索画面の構築や内容の見直しを図る必要がある。
---------	---

問題解決のための方策	プログラムの更新時など、利用者にとって活用しやすいホームページの構築を目指していく。
------------	--

予算要求等今後の方針	ホームページ運用に必要な経費を確保していく。
------------	------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	具体的にどのようにサービスを向上させていくのが見えない。単なるホームページの管理費であり、技術的な面の困難から、今まで以上にサービスの向上を目指す具体的方針を示すことができないと判断するなら、点検・評価の対象とすべきか精査してもよいのではないか。
----------------------	---



狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

5 3

事務事業名	ブックスタート事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	より良い親子関係を育むため、本を通して幼児と触れ合う機会の意義や方法を保護者に伝える。
----	---

評価年度に達すべき目標	3・4か月健診時に本の読み聞かせの意義の説明と絵本セットの配布を行い、読書の意義の理解を深める。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	健康支援課が実施する乳幼児健診(生後3～4か月対象、毎月第3水・木曜日午後、あいとびあセンター)の受診にあわせて事業を実施する。図書館から専門員を派遣し、「赤ちゃんの本を開く楽しさ」を伝えるとともに、絵本や推せん図書のリストを手渡し、乳幼児期における読書の大切さに対する理解を深めるよう啓発活動に取り組んだ。	
評価年度に達した成果	おはなし会などの図書館事業への参加や図書館利用が促進された。 20年度実績: 配布584冊・対象者616人・参加率94.0%	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	584	608	601

A: 評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
 B: 評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
 C: 評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
 D: 評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	保護者に対する趣旨説明のための表現方法等の工夫の必要性がある。 ブックスタート事業の内容について、保護者に十分認知されていない。
---------	---

問題解決のための方策	研修や交流などにより、担当者の表現力の向上を図る。 事業の趣旨を保護者に周知するため、3・4か月健診担当部署と連携し、健診通知を送付する際にブックスタート事業についてのお知らせを同封したり、広報等の工夫を図る。
------------	--

予算要求等今後の方針	経費節減の視点から見直しを図りつつ、サービスの質を確保できるよう予算要求をしていく。
------------	--

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	参加率94.0%は、絵本の配布率を示すものであり、事業の効果を推し量るものではないと思う。本に親しむ機会を醸成する第一歩として考えているならば、その先の展開を見通すべきであり、目的に対して、取組みや成果がどうであったか点検・評価すべきであろう。
----------------------	--

狛江市教育委員会の自己点検及び評価表(平成20年度実施事業)

整理番号

5 4

事務事業名	親子読書推進事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・(継続)

区分については事務事業カルテによる。

目的	図書館を身近なものとするとともに、親子が家庭で、読書を通じてふれあいの時間を持つきっかけをつくる。
----	---

評価年度に達すべき目標	親子で楽しむ読書推進事業として、多くの親子の参加を促進する。	目標に対する成果の達成度  A・(B)・C・D
評価年度の取組	市長会助成事業「多摩・島しょ子ども体験塾助成制度」を受け、子ども向け体験事業として、図書館スタンブラリー、子ども一日図書館員、図書館探検隊、科学遊び、文学散歩、絵本講座などを実施する。	
評価年度に達した成果	「図書館探検隊」、「科学あそび」、「子ども文学散歩」、「絵本講座」など各種事業への参加者の増加 1,011人 対象年齢0～15歳の貸出冊数が17年度：12,595冊から19年度：17,099冊 20年度：17,348冊へ増加している。	

決算額(千円)	18年度	19年度	20年度
	1,158	989	996

A：評価年度に達すべき目標を達成し、順調に推移している。  
B：評価年度に達すべき目標は達成できなかったが、順調に推移している。  
C：評価年度に達すべき目標は達成できたが、進捗が遅れている。  
D：評価年度に達すべき目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	平成21年度で市長会の補助事業が終了する。平成22年度以降、本事業を継続する場合、必要経費は市の全額負担となる。
---------	--

問題解決のための方策	平成21年度は市長会の補助事業として継続していきたいが、補助金に頼らない事業展開も検討する。
------------	--

予算要求等今後の方針	21年度は市長会の補助事業として継続していきたい。
------------	---------------------------

自己点検及び評価に関する審査委員会の意見	ブックスタートからつながっている事業である。わずかではあるが、利用冊数が増加している。子どもへの働きかけは意味があると思う。市長会の補助事業が打ち切られたとしても、財政事情に考慮する必要はあると思うが、何らかの形でいくつかの内容は継続してもらいたい。所管として、創意工夫を持って取組むことを期待したい。
----------------------	---

定例会

第 1 回 20 年 1 月 7 日午後 3 時から

付議案件

- ( 1 ) 議案第 1 号  
狛江市立図書館運営規則の一部を改正する規則について
- ( 2 ) 議案第 2 号  
狛江市立公民館条例施行規則の一部を改正する規則について
- ( 3 ) 議案第 3 号  
狛江市立小学校給食費会計における給食費未納処理事務取扱要領の制定について
- ( 4 ) 議案第 4 号  
狛江市文化財の指定について（諮問）
- ( 5 ) 報告第 1 号  
狛江市立中学校給食実施素案に対するパブリックコメントへの回答について
- ( 6 ) 報告第 2 号  
人事異動について
- ( 7 ) 報告事項  
平成 19 年狛江市議会第 4 回定例会一般質問について

第 2 回 20 年 2 月 4 日午後 3 時から

付議案件

- ( 1 ) 議案第 5 号  
狛江市公立小・中学校長の任命について
- ( 2 ) 議案第 6 号  
狛江市公立小・中学校副校長の任命について
- ( 3 ) 議案第 7 号  
狛江市立中学校給食における家庭からの弁当併用の考え方について
- ( 4 ) 議案第 8 号  
平成 20 年度狛江市教育委員会教育目標（案）について

第 3 回 20 年 3 月 3 日午後 3 時から

付議案件

- ( 1 ) 議案第 9 号  
狛江市教育委員会事務局処務規則の全部を改正する規則について
- ( 2 ) 議案第 10 号  
狛江市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について

- ( 3 ) 議案第 11 号  
狛江市学校図書館支援センター推進事業実施要綱の一部を改正する要綱について
- ( 4 ) 議案第 12 号  
狛江市立図書館処務規則の一部を改正する規則について
- ( 5 ) 議案第 13 号  
狛江市立図書館協議会規則の一部を改正する規則について
- ( 6 ) 議案第 14 号  
狛江市立図書館複写サービス実施要綱の一部を改正する要綱について
- ( 7 ) 議案第 15 号  
狛江市社会教育関係委員の身分証明書発行に関する規則の一部を改正する規則について
- ( 8 ) 議案第 16 号  
狛江市民ホール条例施行規則を廃止する規則について
- ( 9 ) 議案第 17 号  
狛江市青少年委員会議規則を廃止する規則について
- ( 10 ) 議案第 18 号  
狛江市社会教育関係委員代表者連絡協議会設置要綱の一部を改正する要綱について
- ( 11 ) 議案第 19 号  
狛江市立小学校における児童の放課後等遊び場対策に関する要綱を廃止する要綱について
- ( 12 ) 議案第 20 号  
狛江市放課後子どもプラン事業検討本部設置要綱を廃止する要綱について
- ( 13 ) 議案第 21 号  
学校図書館の地域開放実施要綱の制定について
- ( 14 ) 議案第 22 号  
狛江市文化財の指定について
- ( 15 ) 議案第 23 号  
狛江市体育施設条例施行規則の全部を改正する規則について
- ( 16 ) 議案第 24 号  
狛江市体育施設指定管理者選定委員会設置要綱の制定について
- ( 17 ) 議案第 25 号  
西和泉グランド放課後開放事業試行実施要綱の制定について
- ( 18 ) 議案第 26 号  
総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会設置要綱の制定について
- ( 19 ) 議案第 27 号  
狛江市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則の全部を改正する規則について
- ( 20 ) 議案第 28 号  
狛江市公立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について

- (21) 報告第3号  
 狛江市立図書館協議会公募委員選考要領の一部を改正する要領について
- (22) 報告第4号  
 狛江市放課後子どもプラン事業検討委員会設置要領を廃止する要領について
- (23) 報告第5号  
 学校図書館の地域開放事務取扱要領を廃止する要領について
- (24) 報告第6号  
 総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会公募委員選考要領の制定について
- (25) 報告第7号  
 総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会公募委員募集要領の制定について
- (26) 報告事項  
 和泉式土器の東京都指定文化財の指定について

第4回 20年4月8日午後3時から

付議案件

- (1) 議案第29号  
 狛江市就学援助費及び特別支援教育就学奨励費支給に関する要綱の制定について
- (2) 議案第30号  
 狛江市立学校職員の職務に専念する義務の免除に関する事務取扱規則の一部を改正する規則について
- (3) 議案第31号  
 狛江市公立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (4) 議案第32号  
 狛江市立小学校教科書採択に関する要綱の一部を改正する要綱について
- (5) 議案第33号  
 狛江市教育委員会教育長の権限に属する事務の一部委任条項について
- (6) 議案第34号  
 狛江市文化財の解除について(諮問)
- (7) 報告第8号  
 教育委員会事務局の人事異動について
- (8) 報告第9号  
 教員の人事異動について
- (9) 報告事項  
 平成20年狛江市議会第1回定例会一般質問について  
 狛江市立古民家園の指定管理者について  
 平成20年度予算概要について

第5回 20年5月12日午前10時から

付議案件

- (1) 議案第35号  
 狛江市立中学校給食実施要綱の制定について
- (2) 議案第36号  
 狛江市文化財の解除について
- (3) 報告第10号  
 狛江市立中学校給食運営委員会設置要領の制定について
- (4) 報告第11号  
 狛江市社会教育委員の委嘱について
- (5) 報告事項  
 狛江市体育施設指定管理者審査基準について  
 狛江市体育施設指定管理者公募要領について  
 平成20年度全国学力・学習状況調査実施状況について  
 平成19年度狛江市立中学校卒業生進路状況について  
 狛江市立古民家園の指定管理者について  
 よりよい中学校給食実施のためのアンケート結果について

第6回 20年6月9日午前10時から

付議案件

- (1) 議案第37号  
 狛江市立小学校教科書採択に関する要綱の一部を改正する要綱について
- (2) 議案第38号  
 狛江市教育委員会教育長の権限に属する事務の一部委任条項の一部を改正する規則について
- (3) 議案第39号  
 狛江市スポーツ振興審議会への諮問について
- (4) 報告第12号  
 狛江市立公民館運営審議会委員の委嘱について
- (5) 報告事項  
 平成19年度耐震診断の結果について  
 狛江市立中学校給食の開始日について  
 平成20年度狛江市学習状況調査結果について

第7回 20年7月7日午前10時から

付議案件

- (1) 議案第40号  
 狛江市立学校PTA連合会こどもかけこみ110番事業に関する補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
- (2) 報告事項  
 平成20年狛江市議会第2回定例会一般質問について  
 学校における安全対策について  
 「平成19年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について  
 「スクールビジョン2008」について

第8回 20年8月11日午前10時から

付議案件

- (1) 議案第41号  
 狛江市教育委員会委員長の選挙について
- (2) 議案第42号  
 狛江市教育委員会委員長職務代理者の指定について
- (3) 議案第43号  
 平成21年度使用小学校教科用図書並びに特別支援学級用図書の採択について
- (4) 議案第44号  
 狛江市立小学校の検食、サンプル保存食及び助成金交付要綱の一部を改正する要綱について
- (5) 議案第45号  
 狛江市立中学校ミルク給食保存食助成金交付要綱の一部を改正する要綱について
- (6) 議案第46号  
 狛江市就学指導委員会設置要綱の一部を改正する要綱について
- (7) 議案第47号  
 狛江市立中学校給食費会計に対する助成金交付要綱の制定について
- (8) 議案第48号  
 狛江市立学校学校開放地域交流運営委員会の設置等に関する要綱の一部を改正する要綱について
- (9) 報告第13号  
 教育委員会事務局の退職発令について
- (10) 報告事項  
 西和泉体育館消防計画について  
 狛江市体育施設指定管理者の審査について  
 「狛江の社会教育」の発行について

第9回 20年9月5日午前10時から

付議案件

- (1) 議案第49号  
 狛江市立小学校の通学路に関する要綱の制定について
- (2) 報告事項  
 平成19年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果について  
 平成20年度全国学力・学習状況調査の結果について  
 狛江市民プール・元和泉市民テニスコートの利用状況について

第10回 20年10月6日午後3時から

付議案件

- (1) 議案第50号  
 狛江市教育委員会委員長の選挙について

- (2) 議案第51号  
 狛江市教育委員会委員長職務代理者の指名について
- (3) 議案第52号  
 狛江市文化財の解除について(諮問)
- (4) 議案第53号  
 狛江市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について
- (5) 報告第14号  
 教育委員会事務局職員の人事異動について
- (6) 報告事項  
 平成20年狛江市議会第3回定例会一般質問について  
 (有)三鷹給食センター新工場視察報告と現在までの状況について  
 警視庁発表の青少年犯罪について

第11回 20年11月10日午後6時から

付議案件

- (1) 議案第54号  
 狛江市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
- (2) 議案第55号  
 狛江市立中学校ミルク給食保存食助成金交付要綱を廃止する要綱について
- (3) 議案第56号  
 狛江市文化財の解除について
- (4) 報告第15号  
 狛江市体育施設使用特別申請取扱基準について
- (5) 報告第16号  
 狛江市体育施設使用日の日程調整に関する取扱基準について
- (6) 報告事項  
 中学校給食の開始について  
 特色ある教育活動リーフレットについて  
 教員の服務事故について

第12回 20年12月1日午前10時から

付議案件

- (1) 議案第57号  
 狛江市立小・中学校ティーチング・アシスタント事業実施要綱の制定について
- (2) 報告事項  
 東京都公立学校主任教諭導入について  
 平成20年度狛江市「小・中連携の日」実施報告書について

その他の活動

1月

- 4日 狛江第三中学校新旧校長辞令伝達
- 12日 新春スポーツ関係者交流会
- 14日 平成20年狛江市成人式
- 16日 東京都市教育長会総会
- 22日 東京都市町村教育委員会連合会理事会研修会

2月

- 1日 東京都市町村教育委員会連合会研修会
- 2日 P友会 新年会・新春講演会
- 12日 東京都市教育長会幹事会・定例会
- 16日 P T A 連合会新年理事会

3月

- 8日 中央公民館開館30周年
- 19日 中学校卒業式
- 24日 小学校卒業式
- 25日 愛光女子学園中学校課程卒業証書授与式
- 31日 退職者校長辞令交付式 / 退職者教職員辞令交付式等

4月

- 1日 新任転任校長辞令交付式 / 新任転任副校長辞令交付式
- 2日 教職員辞令伝達式 / 初任者研修辞令交付式 / 教職員研修 / 初任者研修会
- 7日 小学校入学式
- 8日 中学校入学式

- 10日 平成20年度教育施策連絡会（東京都教育委員会主催）
- 16日 東京都市教育長会幹事会・定例会
- 24日 東京都市町村教育委員連合会常任理事会・理事会

5月

- 8日 関東地区都市教育長協議会（鎌倉市）
- 13日 平成20年度調布交通安全協会定期総会・懇親会
- 16日 平成20年度関東甲信越静岡市町村教育委員会連合総会及び研修会（甲府市）
- 21日 東京都市町村教育委員連合会第52回定期総会
- 22日 東京都市教育長会幹事会・定例会

6月

- 28日 狛江市立学校 P T A 連合会総会

7月

- 2日 小・中音楽鑑賞教室
- 15日 狛江市社会教育関係委員連絡協議会総会
- 16日 東京都市教育長会幹事会・定例会
- 22日 市町村総合体育大会前夜祭（調布市 たづくり）  
青少年健全育成連絡協議会
- 24日 東京都市教育長会研修会

8月

- 7日 平成20年度多摩・島しょ子ども体験塾第2ブロック共同事業
- 7日～8日 狛江市教職員夏季研修（相模原市 さがみの）
- 20日 東京都市教育長会生涯学習研究委員会
- 26日 東京都市教育長会臨時会

## 平成 20 年度 教育関係施設の主な整備

- 28 日 東京都市町村教育委員会連合会理事会  
東京文化財ウィーク 2008 推進委員会
- 9 月
- 13 日 交通安全のつどい（調布市 グリーンホール）
- 10 月
- 8 日 東京都市教育長会幹事会・定例会
- 10 日 調布交通安全協会創立 60 周年記念式典、祝賀会
- 17 日 東京都市町村教育委員会連合会 平成 20 年度管外視察研修会  
（品川区）
- 22 日 シルバー人材センター設立 30 周年式典
- 26 日 狛江市 P T A 連合会バレーボール大会
- 27 日 東京都市町村教育委員会連合会第 4 ブロック研修会（国分寺）
- 11 月
- 5 日 中学校連合音楽会
- 7 日 狛江の子どもたちを考える講演会（市民センター）
- 15 日 狛江第五小学校創立 40 周年
- 19 日 東京都市教育長会幹事会・定例会
- 12 月
- 5 日 小学校連合音楽会
- 13 日 小学生環境サミット（緑野小学校）  
平成 20 年度多摩・島しょ子ども体験塾（エコルマホール）

- 狛江第一小学校倉庫設置（防災倉庫）
- 狛江第五小学校校庭芝生化
- 狛江第五小学校屋内運動場耐震補強
- 狛江第六小学校防球ネット・放送設備改修
- 和泉小学校屋内運動場耐震補強
- 和泉小学校給食室備品整備
- 和泉小学校多目的室床張替
- 緑野小学校陶芸釜設置
- 狛江第三・第六小・第一・第二中学校ガス管改修
- 狛江市立各中学校配膳室改修
- 狛江第二中学校空調機設置
- 市立小中学校 A E D 設置
- 市民総合体育館改修及び駐車場舗装、オストメイト対応トイレ設備設置
- 市民プール改修及び更衣室配管スペース区画設置
- 中央公民館オストメイト対応トイレ設備設置
- 教育研究所フェンス等改修

運動会、体育祭、学芸会、文化発表会、学習発表会、道徳授業地区公開講座などの学校行事等については、各委員が任意で参観しています。委員長については、教育委員会所管外に委員長として各種委員会に参加しています。

## 平成20年度狛江市教育委員会教育目標

教育は普遍性を持ちつつ新しい時代に適応することが求められています。教育の責任と権限が市町村へと拡大されつつある今日、狛江市の教育はより一層、柔軟かつ的確な対応に努めなければなりません。

狛江市教育委員会は、この基本を踏まえ、学校教育では、知性、感性、道徳心や、体力等の調和のとれた人間性豊かな子どもたちの成長を目指し、社会教育では自己実現を求めて、自主的、自発的に学ぶ人たちが、文化・スポーツ活動を通して教養を高め、健康の増進を図ることを目指し、次の事項を平成20年度の狛江市教育委員会の教育目標と定めます。

互いの生命と人格・人権を尊重し、社会に貢献する市民の育成  
基礎的・基本的な学力を定着させ個性や創造力をはぐくむ学校教育の充実  
個人や社会の要請にこたえる社会教育の充実  
市民の教育活動への参加

〔狛江市教育委員会の基本方針〕

狛江市教育委員会は、「教育目標」を達成するために、以下の「基本方針」にもとづき教育行政を推進する。

〔基本方針 1 「生命及び人格・人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成〕

すべての市民が、互いの生命と人格・人権を尊重し、思いやりの心や規範意識を身に付け、社会に貢献する精神をはぐくむことが求められている。

そのため、生命や人権を尊重する教育の充実はもとより、狛江市で行われる人権尊重等の諸活動に対し、積極的に支援を行う。

- (1) 子どもの教育の基本は家庭にあることを踏まえつつ、学校教育や社会教育等を通して、すべての市民が生命・人格・人権尊重の理念と精神を正しく理解し、子ども・女性・高齢者・障がい者などに関する様々な人権教育が効果的に進められるように努める。
- (2) 自然体験やボランティア活動、交流活動、職場体験など多様な社会体験や学習の機会を取り入れ、社会貢献の精神や豊かな心をはぐくむ教育の充実を図る。
- (3) 子どもたちが、思いやりの心や規範意識を身に付け、人間性豊かで健やかに成長するよう道徳授業の充実や「地域との連携」「小・中学校の連携」など狛江市の特色を生かした生活指導を推進する。
- (4) いじめに対する早期発見、早期解決を図ると共に不登校など児童・生徒の多様な課題に対応するため、スクールカウンセラー、ゆうあいフレンド、教育相談等の諸事業の充実と関係諸機関との連携を図る。

〔基本方針 2 「確かな学力の向上」と「豊かな創造力の伸長」〕

国際化・情報化の進展などの社会の変化に対応できるよう、子どもたち一人ひとりの知識・技能と思考力、判断力、表現力などの資質・能力を育成することが求められている。

そのため、教員の資質の向上を図ると共に、小・中学校の機能的な連携を推進する。

- (1) 小学校の一部教科担任制や中学校の二学期制、習熟の程度に応じた少人数指導など、多様

な教育活動を推進する。

- (2) 教員の指導力の向上を図ると共に福祉、環境、食育などの今日的な課題についての知識を得られるような幅広い研修を推進する。また、小・中学校が連携して指導上の内容や方法について継続的な発展を図る。
- (3) 障がいのある児童・生徒が適切な就学等のもとで、個々のニーズに即した教育が受けられるよう、指導・相談体制の整備や施設の充実、保護者や関係諸機関との連携を進め、特別支援教育の推進を図る。
- (4) 総合的な学習等の授業を有効に活用し、市の歴史や身近な生活を学び、多摩川等豊かな自然に触れ合うことにより、郷土に対する愛着や誇りをはぐくむ。
- (5) 日本や世界の文化・伝統に触れる機会の充実を図り、国際社会の一員としての自覚を育てる。

〔基本方針 3 「誰も」が「親しむ」ことができる社会教育活動の充実〕

市民が自由に学習の機会を選択し、学ぶことができる学習環境の整備と、地域の伝統文化や市民が作り出す文化活動の活発化が求められている。

そのため、自ら学び、文化やスポーツに親しみ、人生をより豊かに過ごすと共に、郷土に対する理解を深め、愛着や誇りをもって、新しい地域文化の形成に貢献できる環境の整備を図る。

- (1) 社会教育委員及び社会教育関係団体の主体的な活動の支援を図る。
- (2) 公民館や図書館などを整備し、学習・交流の機会や情報提供の充実と市民の意見反映に努める。
- (3) 社会教育に関わる個人及び団体のネットワーク作りの推進を図る。
- (4) 狛江市に伝わる有形・無形の文化財の保護と文化財の公開・活用を図ると共に、芸術・伝統文化などに親しむ機会の提供に努める。
- (5) 市民のスポーツの振興、健康・体力づくりを進めるため、地域スポーツ活動の場の整備を学校施設を含めて行うと共に、スポーツ振興計画の推進、学校の部活動や障がい者スポーツなどに対し、市民スポーツ指導者との連携等に努める。

〔基本方針 4 「市民の教育活動への参加」と「地域・諸団体等との連携」の充実〕

教育は、人格の形成を目指すものであり、家庭・学校・地域がそれぞれの責任を果しながら連携し合うことが求められている。このため、学校教育、社会教育はもとより、青少年の健全育成や安全等についても地域社会全体で支え高め合う体制づくりに努める。

- (1) P T A や学校運営連絡協議会等との連携や授業公開等の推進により、市民の教育活動への参加と、安全に配慮した、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- (2) 校長のリーダーシップのもとに、教育方針の明確化と学校評価制度の充実を図る。
- (3) 家庭・地域の教育力の向上を目指して、学校施設・機能の開放を図る。
- (4) 青少年の健全育成に必要な活動の場の確保と、興味・関心の持たれる行事等の開催を支援する。
- (5) 子どもたちの安全を守り、社会性をはぐくむため、市民及び地域・関係諸団体との連携を強め、情報の交換と対策の強化に努める。



狛江市教育委員会の自己点検及び評価実施要綱  
(平成20年12月22日教育委員会要綱第23号)

(目的)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年6月30日法律第162号。以下「地教法」という。)第27条に基づき実施する狛江市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等の方法等について規定する。

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 事務事業 教育行政課題等に対応するために具体的な方策及び対策として実施する個々の事務及び事業をいう。

(2) 点検及び評価 事務事業の効果等を分析し、検証することをいう。

(内容)

第3条 点検及び評価は、事務事業の所管課が行う。

2 点検及び評価は、原則として評価実施年度の前年度の成果に基づいて行う。

(対象)

第4条 教育委員会の権限に属する事務事業のうち、教育長が成果重視の効果的な教育行政を推進するとともに、市民の視点に立った教育行政に資することを踏まえ、市民への説明責任を全うするために点検及び評価が必要であると判断したものとする。

(審査委員会)

第5条 点検及び評価において、地教法第27条第2項に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会(以下「審査委員会」という。)を設置する。

2 審査委員会は、教育委員会が行う自己点検及び評価の結果を踏まえ、第三者的立場から事務事業について審査し、評価意見を付するものとする。

3 審査委員会の規定については、教育長が別に定める。

(報告及び公表)

第6条 教育長は、審査委員会による審査を経た点検及び評価の結果について、すみやかに教育委員会に報告するとともに、地教法第27条第1項に基づき、狛江市議会に報告し、公表しなければならない。

(庶務)

第7条 点検及び評価に関する庶務は、教育部学校教育課教育庶務係が行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、公布の日から施行する。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会設置要綱

(平成 20 年 12 月 22 日教育委員会要綱第 24 号)

(改正 平成 21 年 7 月 13 日教委要綱第 10 号)

(目的)

第 1 条 狛江市教育委員会の自己点検及び評価実施要綱(平成 20 年 12 月 22 日狛江市教育委員会要綱第 23 号)第 5 条に基づき、狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会(以下「審査委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 審査委員会は、狛江市における教育の今日的な状況を踏まえ、教育の質の向上に資するよう、教育委員会が効果的に教育行政を行うとともに、教育的な観点から適切に教育行政が行われているか、教育委員会の自己点検及び評価の結果について審査し、評価意見を付するものとする。

(組織)

第 3 条 審査委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1)教育に関する学識経験者 | 2 名 |
| (2)公募市民        | 2 名 |
| (3)教育部長        | 1 名 |

2 審査委員会に委員長、副委員長各 1 名を置き、委員の互選によってこれを定める。

3 委員長は、所掌事項について審査委員会を統括する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、委員となった日から 2 年を超えない 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

(招集及び審査委員会)

第 5 条 審査委員会は、委員長が招集する。

2 審査委員会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(関係者の出席)

第 6 条 委員長は、必要と認めるときは、所管課長を審査委員会に出席させ、説明を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 7 条 審査委員会に関する庶務は、教育部学校教育課教育庶務係が行う。

(委任)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、審査委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、公布の日から施行する。

付 則(平成 21 年 7 月 13 日教委要綱第 10 号)

この要綱は、公布の日から施行する。

登録番号（刊行物番号）

H21-37

狛江市教育委員会の自己点検及び評価報告書  
（平成 20 年度実施事業）

発行日	平成 22 年 3 月
発行者	狛江市教育委員会
編集者	狛江市教育委員会 教育部学校教育課 狛江市和泉本町 1-1-5 電話 03 (3430) 1111
印刷	庁内印刷
頒布価格	100 円